

令和7年度 保幼小連携・接続実践事例集



架け橋カリキュラム作成のプロセス

- フェーズ1 基盤作り
- フェーズ2 検討・開発
- フェーズ3 実施・検証
- フェーズ4 改善・発展サイクルの定着

各市町村、各幼稚園教育施設や小学校における「架け橋カリキュラム作成・実施」を中心とした保幼小連携・接続の実践を情報共有し、県内の各担当者が取組を推進するための参考にしてください。

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課就学前教育・家庭教育推進室

令和7年度 保幼小連携・接続実践事例集 掲載事例一覧

○ フェーズ1 基盤作り

笠間市、大子町、常陸太田市、石岡市、つくば市、阿見町、桜川市

○ フェーズ2 検討・開発

水戸市、常陸大宮市、那珂市、小美玉市、大洗町、城里町、日立市、高萩市

北茨城市、潮来市、行方市、鉾田市、土浦市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市

守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、河内町

利根町、古河市、下妻市、常総市、坂東市、八千代町、五霞町

○ フェーズ3 実施・検証

ひたちなか市、東海村、神栖市、結城市

○ フェーズ4 改善・発展サイクルの定着

茨城町、鹿嶋市、筑西市、境町

※ 掲載順不同

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を視点に小学校とのつながりを考える

～小学校と幼児教育施設との連携をとおして～

笠間市

保幼小連携協議会の取組

取組の背景や工夫した点

- 協議の前に共通理解を図るために、教育長から講話をいただき、小学校への接続の大切さを具体的に示した。

- 連絡協議会で話題になったことを年内の活動に取り入れる。

参加者（保育者、小学校教員）

準備物（スタートカリキュラム、幼児・児童の活動写真等）

■ 「保幼小連携協議会の開催」5月

- 教育長講話
 - 笠間市の教育についての広い視点で講話をいただく。
 - 魅力ある市になるために、幼児教育は家庭を支えるために必須である。
 - 小学校が幼児教育を学ぶときである。
- 小学校区かけ橋期の接続カリキュラム作成
 - 幼児の活動写真を見ながら、円滑な接続のために必要なことを確認する。
- 本年度の保幼小連携について、就学児の小学校区ごと情報交換
 - 就学児の様子を情報交換し、個に応じた対応について検討する。
 - 小学校教員から幼児との関わり方を学びたいと要望が出た。



■ 「連携協議会を受けて実施した幼児教育施設での体験活動」8月

- 幼児教育との接続を意識して
 - 具体的な接し方を現場にて学ぶ。
 - 幼児期までの指導と、小学校での指導を比較する。
- 小学校での指導に生かす
 - 遊びの中から学ぶことの実践を通して、生活科への指導に生かす。
 - 授業中のトイレなど、幼児期における学習規律を確認する。



まとめ

小学校教員が幼稚園・保育園（保幼）の活動を体験し、保幼小連携の視点を学びました。

年長児はひらがなや数字など、小学校での「できていること」が多く、子供扱いしそぎない指導が可能です。また、年少・年中児の活動から、生活に根差した体験やルール指導、選択の自由、メリハリのある行動様式が既に身についていることを確認しました。

今後は、保幼で培った力を小学校で自覚させる教育、そして「できること」を前提とした指導と保幼で共通の環境（例：音楽）づくりを通じた円滑な接続を目指します。



フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検討

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

新入学児保護者説明会に入学予定園児との交流 人との関わりを通した心の成長について考える ～生瀬小学校の実践～

大子町

新入学児説明会で保護者が話し合いをしている間に、1・2年生と新入学児の交流を行っている。交流内容は、自己紹介、折り紙制作、お絵かきである。担当する園児を決めて、いっしょに活動をし、分からぬことや困っていることがあれば手助けしても良いこととしている。それぞれが、お兄さんお姉さんとなり活躍できる良い機会である。

参加者（新入学児、1・2年生児童、小学校教員）

準備物　・折り紙・画用紙・クレヨン

■教師の願い

- 新入学児といっしょに活動することで、下学年との上手な関わり方に気付かせたい。
- 新入学児や友達の様々な考えを聞き、自分と異なる考え方があることに気付かせたい。
- 自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができるようになしたい。



■児童の活動・気付き

◎ねらい

新入学児が緊張せずに学校で、活動ができるようにアドバイスができるようにする。

○音楽で習った曲を聴かせる。

- ・「この曲なら知っているかな。」
- ・「いっしょに歌ってもらいたいな。」
- ・「カスタネットや鈴を用意しよう。」

○好きな食べ物を画用紙に描いてもらう。

- ・「好きなものは何って、やさしく聞こうね。」
- ・「うまくかけないときもあるかもね。」
- ・「自分の好きなものをかいてみせよう。」



○折り紙をいっしょに折る

- ・「丁寧にゆっくり教えよう。」
- ・「できたらほめたいね。」

まとめ

新年度から、いっしょに生活する新入学児のため、自分たちが相手を楽しませようという気持ちをもって意欲的に活動していた。活動中は、児童同士のつながりを大切にし、教師の援助をできるだけ減らし様子を見た。児童が困っているときは寄り添い、どうしたらよいか、どうしたいか問い合わせて、児童に考えを促した。その結果、自分たちで考え、解決しようとする態度が見られた。

新入学児との交流は、児童にとって刺激であり学年がひとつ上がるという意識をもつことができた。学習意欲につながると感じた。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

架け橋カリキュラムの理解と作成・実施に向けて

～持参した写真をもとに幼児・児童の姿の「遊び・学び」の姿の背景について協議する～

常陸太田市

令和7年8月8日（金）に、保幼小コーディネーター及び園内リーダーを対象に、茨城県幼児教育アドバイザー神永直美先生を招き、架け橋カリキュラムの理解や持参した写真をもとに幼児・児童の「遊び・学び」の姿の背景について語り合う「市保幼小接続研修会」を実施した。

【参加者】保幼小コーディネーター（小学校）8名

園内リーダー（公立幼稚園2名、公立認定こども園4名、公立保育園2名、私立認定こども園1名、私立保育園2名）

■講話「架け橋カリキュラムの作成・実施に向けて」

県幼児教育アドバイザー

敬愛短期大学 現代子ども学科 特任教授 神永直美先生

○主な講話の内容

- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について
- ・架け橋カリキュラムの作成について
- ・幼児教育と小学校教育との円滑な接続について 等



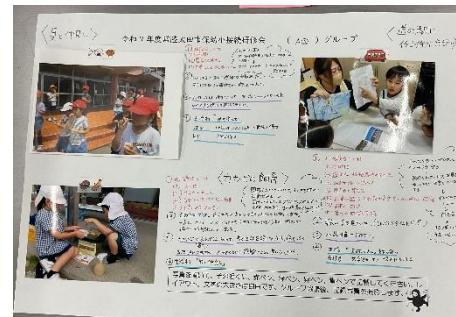
【写真①】グループ協議の様子

■グループ協議

※地区ごとにグループを編成

各自持参した写真をもとに、次の視点について協議した。

- ①「幼児期に育ってほしい10の姿」のどのような姿であると捉えられるか
- ②これまでにどのような体験があったと考えられるか
- ③さらに体験してほしいこと
- ④小学校ではどのような場面に生かされるか



【写真②】グループ協議ワークシート

■参加者の感想から（カリキュラム作成に向けて）

- 小学校の先生と10の姿について、写真を活用しながら話し合うことで、幼稚園教育においての子供の捉え方を知つてもらうとともに、小学校教育にどのようにつながっていくかを知ることができた。今後も、このように、お互いの教育について知る機会を設けること、話し合う場をつくることが架け橋期を支えていく上で重要だと思った。
- 学校全体でカリキュラムの考え方について共有して理解し、作成や計画に小学校教員と幼稚園や保育園の先生方と協力して作成していくこと、そのための時間や機会を確保していくことが重要であると考えた。

【まとめ】

研修後のアンケートでは、全ての参加者が幼稚園教育施設と小学校の連携の必要性を実感していた。現在実施している連携に加え、「幼児期に育つてほしい10の姿」を視点とした授業参観や協議など、「架け橋期」としての連携ができる場の設定の在り方が課題である。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

石岡市保幼小接続担当者等合同研修会 (①R7.5.28②R7.8.7)

石岡市



石岡市（22幼児教育施設及び15小学校）における保幼小の円滑な接続のため、合同研修会を2回実施した。第1回研修会にて、同地区や就学先との情報交換を行った。その研修の際、架け橋カリキュラムについて理解を深めたいという要望があったことを踏まえ、第2回は「県幼児教育アドバイザー派遣事業」を活用して、研修会を開催した。

参加者：幼児教育施設保幼小接続担当者、小学校幼児教育施設保幼小接続担当者

市職員（子育て健康部・教育委員会）

開催までの準備：幼児教育アドバイザー派遣事業への申請、講師との事前打ち合わせ

保幼小接続担当課（こども未来課・学校教育課）との連絡調整（生涯学習課）

市内幼児教育施設及び小学校への周知（生涯学習課）

■講話「架け橋カリキュラムの作成に向けて～幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指して～」

【講師】茨城女子短期大学 副学長 こども学科教授 助川公継 先生（茨城県幼児教育アドバイザー）

「学校段階間の接続とは？」や「架け橋カリキュラムとは？」「架け橋カリキュラム作成のプロセス」など、幼児教育と小学校教育の特徴を相互理解することを入口として、交流や連携を図っていくため、「架け橋カリキュラム」作成の重要性について講話いただいた。

また、今後、架け橋カリキュラムを作成していく上で必要な6つの視点を与えていただき、さらに事例等も交えながら具体的な作成へのヒントもいただいた。

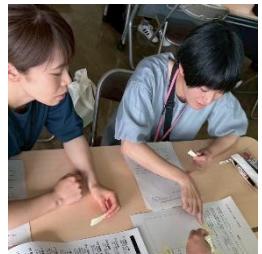


■グループ協議「子どもの学びを捉えよう」

映像資料を視聴し、子どもの姿から幼児教育と小学校教育の学びのつながり（架け橋期の学び）を協議した。協議は「小学校教育とつながっていると感じたこと」と「これから保育・教育に生かしたいこと」の2つの視点で実施した。（映像資料：映像で見る主体的な遊びで育つ子ども～遊んでぼくらは人間になる～〈エイデル研究所〉）



協議を進めていく上での配慮として、子どもの実態を共有しやすくするために、所在地域や就学先等を考慮した小グループ編成をした。映像を視聴し、子どもの姿から学びを捉える視点を共有し、幼児教育と小学校教育の学びの連続性について協議した。協議終了後、助川先生より、指導助言をいただいた。



まとめ

- ・同地区や就学先と相互授業参観の予定確認と、卒園後の1年生の様子などについて情報交換し、職員同士の関わりを深め、保幼小接続の重要さを再認識することができた。
- ・架け橋カリキュラムについての知識・理解を深め、今後、作成に向けての土台作りを行うことができた。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に 幼児教育と小学校教育のつながりを考える

～ 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための合同研修会の実践 ～



つくば市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進するため、幼児教育施設及び小学校・義務教育学校の教職員を対象に、連携・接続に関する研修会を開催した。学園ごとに会場を設定し、オンライン配信と対面参加を組み合わせたハイブリッド形式で実施した。

参加者 公立保育所、公立幼稚園、私立保育園、私立幼稚園、認定こども園、市内小学校、市内義務教育学校の担当者 89 名、他関係者 7 名

準備 •「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」ワーク1のワークシート「映像を見て語り合おう」・ワークシート「接続カリキュラムの見直し・改善」(市で作成)
•アプローチカリキュラム(幼児教育施設)、スタートカリキュラム(小・義務教育学校)

■オンライン研修「講話：架け橋カリキュラムの作成・実施に向けて」

敬愛短期大学現代こども学科教授 神永 直美 先生

今回の研修では、「幼児期の育ちと学びとは」「学びをつなぐとは」という視点を共有し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえながら、幼児教育で培われた学びの芽を小学校教育につなげていくイメージを深めることができた。研修を通して、参加者は架け橋プログラムの取り組みについて理解を深めるとともに、架け橋カリキュラムの完成イメージや作成手順をより具体的に捉えることができた。これらの学びを通して、幼児教育と小学校教育がより円滑につながっていくための工夫や視点を改めて確認し、今後の架け橋期のカリキュラムづくりに生かしていくための基盤作りをする機会となった。

■協議①「映像を見て語り合おう」における主な意見

内容架け橋カリキュラム作成ガイドブック(フェーズ1ワーク1)より次の視点で話し合う。

・ワークシートを用いて映像の中で見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどんな姿が捉えられるか。小学校の学習や生活とのつながりはどうか。

●参加者の意見

子どもたちの遊びを丁寧に見取る中で、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が、日々の活動の中で育まれていることを確認できた。共通の目的をもつ遊びでは、役割分担や助け合いが生まれ、協同性が見られたほか、簡潔な約束事を通して規範意識が芽生える様子も捉えられた。また、最小限の条件によって試行錯誤や意見交換が促され、思考力の芽生えにつながっていることも理解することができた。こうした遊びに見られる学びの芽を、小学校教育にもつなげていきたい。

■協議②「アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し・改善」における主な意見

内容次の3つの視点で協議を行った。

- ① アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムで悩んでいることは何か。また、実践して効果を感じている保育、教育活動は何か。
- ② お互いの悩みにヒントを伝え合うとしたらどんなことか。
- ③ 幼児期の保育から小学校教育へスムーズに移行するためのポイントやお互いにできること。

●参加者の意見

- ① 小学校で4月から45分間座って学習するのではなく、体を動かす時間を設けることで、幼稚園の活動との違いに対する抵抗を和らげるような配慮をした。幼稚園の活動で、主体性を尊重した活動を重ねることで、指示を待たずに自主的に取り組む幼児が増えた。
- ② 失敗を恐れる子どもには、失敗しても大丈夫という安心感を与える環境づくりが重要である。主体性を育てるために、「どうしたい?」という声かけだけでなく、選択肢を示し自分で選んで達成できる経験を積ませたい。
- ③ 幼児期の保育は自分のペースで活動できることが多いが、学校では全体の流れの中で行動することが多い。教員はこの違いを理解し、架け橋期には特に丁寧な指導と環境への橋渡しが必要だと感じた。

今回の研修では、幼児期の学びを小学校へつなぐ視点を共有し、架け橋カリキュラムの作成・実施への理解を深めることができた。協議では、遊びに見られる学びの芽を小学校につなぐ重要性や、架け橋期に大切な主体性の育成・環境調整など、改善すべきポイントが整理された。今後は、得られた知見を基にカリキュラムを見直し、幼児教育施設と学校で共通理解をもちながら、架け橋期の充実を図っていく。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

幼児教育と小学校教育の充実に向けて

～情報交換会・授業公開・子どもの交流を通して～



架け橋カリキュラム作成・実施に向けて、小学校教員と保育者が交流する機会を設定しました。情報交換を行ったり、互いの様子を見合つたりすることで、園や小学校での子どもの生活や学習の様子がわかり、共通理解をもって入学に向けての円滑な接続ができるのではないかと考え、取組を行いました。

参加者：町内小学校教員、町内幼児教育施設教員、教育委員会指導主事、社会教育主事

■「幼児教育と小学校教育接続のための研修会」の実施

○ 県幼児教育アドバイザーをお招きしての研修会

- ・「特別な配慮を必要とする子どもへの支援（保幼小接続期）について」をテーマに講話をいただきました。講話の中では、保幼小のよりよい連携の仕方についてもご指導いただきました。



また、グループ協議では、架け橋カリキュラムの作成に向けて育てたい子どもの姿についてイメージの共有を図りました。今後の架け橋カリキュラム開発会議に向けて、つながりをもつよい機会となりました。

○ 情報交換会

- ・幼児一人一人の様子を小学校に伝えていただくことにより、学校生活にスムーズに慣れることができるような体制づくりや教育内容に生かすことができています。また、配慮事項や支援方法についても共有し合うことで、具体的な支援につなげることができます。



■「授業公開（小学校）の案内」

○ 相互参観

- ・町教育委員会による小学校計画訪問時に授業公開することを町内の幼児教育施設にお知らせし、主に学区内の学校を参観していただきました。幼児の頃からの成長した様子を中心に見ていただき、参観後には、たくさんの感想などもいただきました。また、今年度から幼児教育施設へ参観する学校も増えており、互いの教育について理解する機会になっています。

■小学校での取組

○ 子どもの交流の実施

- ・幼児（年長児）と児童（1年生）の交流活動を多くの学校が行っています。幼児が学校の様子を見たり、児童と一緒にレクリエーションを行ったりすることで、入学に向けての不安を少しでも和らぐようにしていけたらと考えています。

今後も、「架け橋カリキュラム」の検討・開発に向けて、小学校と幼児教育施設がそれぞれの教育内容等について相互理解が図れるよう、定期的に交流・情報交換ができる機会を設定してまいります。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

保育参観と小学校授業参観の取組を通して

～ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続、
架け橋プログラムの在り方について ～

桜川市



©桜川市

小学校と幼保園の円滑な接続を目指すため、保育者と小学校教員の相互保育・授業参観を実施している。また、増加傾向にある特別な教育的支援を要する新学齢児について、入学後を見据えた支援の在り方の検討が求められている。保育者と小学校教員における情報交換を行い、円滑な接続、支援に向けての引継ぎも実施している。さらに、茨城県幼児教育アドバイザー派遣を利用した研修会を開催し、具体的な架け橋期カリキュラムについて協議することで、架け橋期についての理解を深めていきたい。

■授業参観 「小学校1・2年生の授業参観」

参加者：公立（保育所型）職員：9名、私立（幼保連携型）職員：2名、

私立（保育所型）職員：18名 （※各小学校に複数名でこども園の先生方が参加）

- ・ 6月 5日（木）羽黒小（算数・道徳） 6月 6日（金）坂戸小（生活科・道徳）
- ・ 6月 13日（金）雨引小（国語、道徳） 6月 27日（金）南飯田小（国語、生活科）
- ・ 6月 30日（月）大国小（算数、生活科） 7月 1日（火）岩瀬小（国語、算数、音楽）
- ・ 7月 14日（月）真壁学園（算数、生活科、道徳、学活）

◇参観後の感想◇

- 実際に授業参観をしたことで、小学校でどのように授業を受け、生活をしているのか見ることができ、よかったです。授業の中で、対話活動やグループ活動を取り入れ、自分の言葉で発表している姿があった。また、児童の集中力が続くような言葉かけがあり、参考になった。子どもたちの成長を見ることができてよかったです。
- 子どもたちが主体的に学びに向かう姿や、先生方の丁寧な指導を参観し、就学前の保育をどのように整えていくか、改めて考えるきっかけとなった。
- 特別支援学級では、一人一人と向き合い、本児の特性に合わせた細やかな指導がされていた。今後

■保育参観「年長クラスの授業参観」 小学校・義務教育学校：5名

・9月3日、5日、9日、10日 市内幼児教育施設6園を参観

- 園によって、アプローチの仕方がさまざまである。どんな力を身に付けさせるために、どんな遊びや活動を行うのか、また、遊びの中でどのような声かけをし、子どもたちに気づかせているのか、参観後に協議する時間があると良いと感じた。
- 保育参観を通して、幼児教育施設の先生方と小学校教員が情報を共有していくことの大切さ、幼児期の学びと小学校教育の学びの連続性を意識したカリキュラムの作成方法について考えていかなくてはならないと感じた。

■研修会「架け橋カリキュラムの作成・実施にむけて」(R7.12.11実施予定)

【講師】敬愛短期大学 現代子ども学科 特任教授 神永 直美 先生

参加者 公立こ：1名、私立幼：2名、私立保：3名、小学校・義務教育学校：7名

生涯学習課、児童福祉課、教育指導課 各1～2名 合計 18名

◇「架け橋プログラム」作成に向けて、保育者と教員が、幼児教育と小学校教育の育ちや学びについて理解を深める機会とする。円滑な接続になるよう、小学区ごとに進めていきたい。

今後も、保育参観・授業参観を行い、それぞれの教育内容について協議・情報共有等を行える場を作っていく。また、連携を密にする中で、「連携・交流」から「学びの連続」へつなげていきたい。さらには、特別な支援を要する児童・生徒についても、支援方法の確認、保護者との連携など、子どものより良い成長につながる働きを丁寧に行っていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

架け橋カリキュラム作成の現況 ～水戸市版作成と渡里地区における研究推進～

水戸市

本市では、本年度、検討委員会を設置して水戸市版架け橋カリキュラムの作成に着手した。年内の完成を目指し、令和8年1月に開催する幼児教育と小学校教育接続のための協議会で公表予定である。また、水戸市版作成に先行して、渡里地区の幼児教育・保育施設と小学校が市の指定を受け、架け橋カリキュラムについて、実践研究をしている。

■「水戸市版架け橋カリキュラム作成検討委員会」

(1)構成委員

小学校・義務教育学校：校長1、小学校教諭2
公立幼児教育・保育施設：施設長1、幼稚園教頭1、
保育所主任保育士1
オブザーバー：私立幼稚園園長1、副園長1、
私立保育園主任保育士1
事務局：水戸市総合教育研究所指導主事1、
幼児保育課幼児教育アドバイザー1



(2)協議内容

ガイドブック（茨城県教育委員会）を参考にした架け橋カリキュラムの作成
「育てたい子どもの姿」、「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」の検討等

■「渡里地区における市指定研究（令和7・8年度）」

研究主題：架け橋カリキュラム作成を通して、学びの連続性のある保幼小間の交流の在り方

(1)研究指定学校・園・所

水戸市立渡里保育所、認定こども園わたり渡里幼稚園、
水戸市立渡里小学校



(2)研究内容

- ①保幼小連絡協議会の開催
 - ・ガイドブックを参考にした架け橋カリキュラムの作成
 - ・交流事業の計画、相互参観の報告・情報共有
- ②計画訪問・公開保育等の相互参観、交流事業の実施及び参観・事業実施後の協議

本年度、架け橋カリキュラムに係る取組は計画どおり進められており、カリキュラムが形作られている。また、公立、民間を問わず、架け橋カリキュラム作成の気運が市全体に広まりつつある。

次年度は、地区ごとのカリキュラム作成を推進する予定である。幼児教育と小学校教育接続のための協議会（国公立小学校・義務教育学校34、国公立幼児教育・保育施設21、民間幼児教育・保育施設65）は5ブロックで構成されているが、カリキュラム作成にあたって、ブロック内で、グループをどのように編成するかが課題である。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

保幼小の連携について ～架け橋カリキュラムの作成を通して～



特別な教育的支援を必要とする新学齢児の学びの場を幼稚教育施設と小学校とが連携して検討することができるよう、研修の機会を設ける。

保幼小の接続を強化し、発達や学びの連続性を確保できるようにするために、架け橋カリキュラムの意義や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解を深める研修会を指導室とこども課で連携して開催する。

■ 第1回保幼小連携に係る研修会の開催

実施日 令和7年11月18日（火）

参加者 小学校11名、私立保2名、私立こ7名、公立保1名、
公立こ1名、こども課長、学校教育課長

目的 架け橋カリキュラムを作成することや実施することを通して、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な「架け橋期（5歳から1年生終了までの2年間）」の更なる充実を目指す。



内 容 ・講話「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と架け橋カリキュラムについて」

公益社団法人全国幼稚教育研究協会茨城支部会長 福田 洋子 様

・グループ協議「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」

○幼児教育の充実のための基本的な視点として幼児の心に寄り添うことの大切さや環境を通して行う教育について理解を深めることができた。

○グループ協議では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について、映像視聴をもとに考えるとともに、ざっくばらんに情報交換をすることができた。

■ 第2回保幼小連携に係る研修会の開催

実施日 令和7年12月17日（水）

参加者 小学校11名、私立保2名、私立こ8名、公立保1名、公立こ1名

目的 第1回保幼小連携に係る研修会の内容を踏まえ、架け橋カリキュラムの作成に着手する。架け橋カリキュラムを策定することや実施することを通して、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な「架け橋期（5歳から1年生終了までの2年間）」の更なる充実を目指す。

内 容 ・グループ協議①「育てたい子どもの姿のキャッチフレーズ」について

・グループ協議②「学びや遊びプロセス、環境構成、先生の関わりの大目にしたいこと」について

研修会を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や架け橋カリキュラムの意義について、考えを深めることができた。今回の研修会が、小学校と幼稚教育施設の相互理解をより深めるよい機会となった。今後は、特別支援教育の視点を架け橋カリキュラムに反映させたり、実践事例の収集や検証をしたりすることも必要であると感じる。次年度も継続して研修の場を設定するとともに、保幼小連携の目的や必要性について、理解啓発を進めていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

『かけ橋カリキュラム』の作成に向けて ～ワーキンググループでの協議の充実を通して～

那珂市

○参加者 各校小学校教員 1名 各学園隣接幼稚教育施設 1名 ひまわり幼稚園教諭（公立幼稚園）

○ねらい

幼稚教育施設と小学校が連携・協働し、「共通の視点」をもち、意見交換をしながらカリキュラムの作成をしていくことで、保幼小中の円滑な接続とさらなる連携の強化・促進を図る。

■ 「『かけ橋期に育てたい姿』の保幼小共通の視点」

協議では、保幼小の参加者がそれぞれの立場から意見を出し合い、共通して大切にしたい視点を整理しました。

まず、文部科学省が示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を確認し、これらをかけ橋期の学びとどうつなげるかを話し合いました。

幼稚教育施設の視点からは、「遊びの中で自ら考え、友達と協力する経験が大切」「生活を通して自分の気持ちを表現し、相手の思いに気づける子を育てたい」といった意見が多く出されました。また、子どもの主体的な気づきを大切にし、結果よりも過程を評価する視点が強調されました。

小学校教員の視点からは、「学びの基礎として話を聞く力や集中して取り組む力を育てたい」「友達と協働して考えを深められるような学びの姿をつくりたい」という意見が出されました。ただし、知識や技能を先取りするのではなく、幼児期の遊びや生活を土台にして学びに向かう力を自然に形成することを重視する点で共通していました。

これらの意見を踏まえ、共通の育成視点として「自ら考え、仲間と協働し、意欲的に生活や学びに向かう子ども」を掲げることとしました。その際、10の姿を軸に、心情面・社会性・思考力・感性を総合的に育てるなどを確認しました。特に、「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」の4項目は、保幼小いずれの段階でも共通して大切にすべき柱として整理されました。



■ 「『かけ橋カリキュラム』作成に向けたワーキンググループの協議の内容について」

本市では、早期から一貫した教育の充実のため、幼稚教育施設、小中学校が那珂市で育っていく子どもの姿について具体的な共通理解を図りながら保幼小中の連携の強化と円滑な接続を目指しています。そこで、隣接の幼稚教育施設と小学校教員、公立幼稚園教諭がカリキュラム作成に係る学園ごとのワーキンググループを組織し、作成に取り組みました。協議は活発な雰囲気で進み、参加者が互いの立場や実践を尊重しながら意見交換を行いました。



参加者からは、「子どもが主体的に活動を選び、友達と試行錯誤する経験を大切にしたい」という提案や「学びの導入として探究的な活動を取り入れ、子ども同士の対話を中心に展開したい」という意見が出されました。両者の意見をもとに、幼児期の遊びから学びへの自然な接続を意識したカリキュラム案を作成しました。

具体的には、①体験や遊びから生まれた問い合わせをもとにした探究活動、②グループでの話し合いや振り返りの時間の設定、③生活と結び付いた活動の充実、などが挙げられました。子どもの姿を中心に双方が理解を深める機会が設けられました。保幼小が一堂に会して意見を出し合う中で、共通のゴールを共有することができました。参加者からは「互いの教育観の違いを理解し、共通点を見出すことができた」「今後の実践につなげたい」という声が多く聞かれ、今後の連携・実践への意欲が高まりました。

まとめ

今後は、実践の振り返りを通して、子どもの変化や課題を客観的に分析し、保育・教育内容の改善につなげていくことが求められる。定期的にカリキュラムを検証し、指導法や環境構成を更新していくサイクルを確立していく。かけ橋期は単なる移行支援ではなく、幼稚教育と小学校教育が一体となって子どもの成長を支える教育の礎であり、相互に学び合い、子どもの育ちを中心に据えた連携を深めていくことが大切となる。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

架け橋カリキュラムの【共通の視点】

「育てたい子どもの姿」「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」について語り合う

小美玉市

概要：昨年度は、フェーズ1「基盤づくり」を重点に実施し、保幼小で相互参観による情報共有「幼稚教育」と「学校教育」のつながり（年長児～1年生へ）イメージ図を「幼稚期の終わりまでに育てたい10の姿」をもとに小学校区ごとに作成した。

今年度は、そのイメージ図を活用し、管理職研修会・保幼小接続担当者研修会で協議をしながらフェーズ2「検討・開発」に取り組んでいる。

■管理職研修会：7月29日実施

参加者：小・義務教育学校長7名、公立幼稚園長2名、私立保育園・認定こども園園長14名

教育指導課 幼児教育推進係 2名

○小学校区における「育てたい子どもの姿」について協議

前半は、共栄大学准教授梶井正紀先生より、「幼稚期の育ちと小学校の学びをつなぐ『架け橋カリキュラム』」をテーマに講話を頂いた。

後半は、小学校区ごとに各園の管理職と小・義務教育学校の管理職で「育てたい子どもの姿」についてグループ協議を実施した。各校のグランドデザインや園の目標、日頃の子どもたちの様子をもとに「育てたい子どもの姿」について話し合い、キーワードにまとめた。



■接続担当者研修会：8月5日実施

参加者：小・義務教育学校 1年担任9名、公立幼稚園年長担任2名

私立保育園・認定こども園 接続担当者 14名、

教育指導課 幼児教育推進係 3名

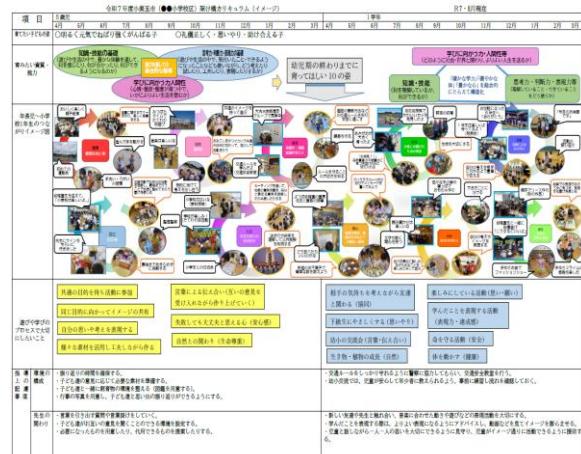
① 講話 「架け橋カリキュラムの作成・実施に向けて」

講師 敬愛短期大学 現代子ども学科 神永 直美 先生



② グループ協議

「架け橋カリキュラム作成～遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと～」について、小学校区ごとのグループで、架け橋カリキュラム作成ガイドブックのワーク6に取り組んだ。講師の神永先生には、グループ協議の中でご助言いただき、昨年度作成した「幼稚教育」と「学校教育」のつながり（年長児～1年生へ）イメージ図を活用しながら、保幼小の活動のつながりをもとに、付箋に書いた「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」について話し合い、キーワードにまとめた。



今年度も、保幼小の多くの先生方が、相互参観に協力してくれた。架け橋カリキュラム作成研修を通して、園の先生方の意識に変化が見られ、子どもたちがワクワクしながら主体的に活動している様子が多く見られた。8月の架け橋カリキュラム作成研修をもとに、9月以降実践していただき、令和8年2月に架け橋カリキュラム作成・見直し研修を予定している。保幼小の先生方が「架け橋カリキュラム作成」に協働でかかわることで、実践につながると考える。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

スタートカリキュラムから 架け橋カリキュラムへ ～幼児教育から小学校教育への学びの連続性～

大洗町

町内の学校、保育園(所)の職員が、日常の保育や授業を参観して理解を深める「大洗町保幼小中連携相互参観」を、7月(保育園)、10月(小学校)の2回開催した。本町は「特別支援教育の理解促進と関係機関との連携」が課題であることから、8月の町特別支援教育研修会には保育に携わる方と合同研修会を実施。また、カリキュラムの見直しを昨年度末から実施し、まずは小学校のスタートカリキュラムをどのようにしていくかを開発会議で議論した。

■スタートカリキュラムの見直しから架け橋カリキュラムへ

- ①スタートカリキュラムの見直し (R7.2月)
- ・参加者：小学校管理職・1学年担任
幼児施設管理職・年長クラス担当保育士
町教委指導主事・学校教育課職員
 - ・内 容：スタートカリキュラムの見直し



R7年2月にカリキュラム開発会議（幼児教育・小学校教育連絡協議会内で実施）し、R7年度のスタートカリキュラムについて話し合った。4月のスタートからの小学校の実践について、具体的な活動や子どもの姿について話し合うことができた。

②スタートカリキュラム実施後の振り返りとアプローチカリキュラムの見直し (R7.10月)

- ・参加者：小学校1学年担任
幼児施設保育士
町教委指導主事
- ・内 容：授業参観と意見交換会



架け橋カリキュラムに向けて、既存の接続カリキュラムの活用できる部分や子どもたちの活動の様子について話し合うことができた。また、保育士の方からは、アプローチカリキュラムについての実際や今年度の取り組み予定などが話題に上がった。

本年度は、開発会議でスタートカリキュラムの見直しから着手した。アプローチカリキュラムも見直し、架け橋カリキュラムの作成につなげていきたい。カリキュラム作成には課題はたくさんあるが、検討を重ねて開発を進めていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

城里町架け橋カリキュラム作成のための研修会 ～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有 しよう～



概要：令和7年11月19日（水）に、城里町内幼児教育施設の保育者と小学校1学年担当教員を対象に、城里町架け橋カリキュラム作成のための研修会を実施した。研修会のねらいは、町内の保幼小連携担当者のことをよりよく知ること、各園・学校の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有すること、の2つに絞って行った。

参加者：保育者各園1～2名、小学校教員（1学年担当・保幼小コーディネーター）、
城里町教育委員会指導主事

準備物：架け橋カリキュラム作成ガイドブック、遊びや学びの様子が分かる写真（2～3枚）、園や学校のグランドデザイン、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」シート（事前作成）

■ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」シートの作成

研修会の前に、各園・小学校ごとに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を1つのシートにまとめてもらった。シートを作成する際に、参加者の主観のみで作成するのではなく、必ず管理職を含め園や学校全体で相談をしたり、園内・校内研修等で意見を集約したりするなどしながら、園や学校の思いが伝わるように作成するよう依頼した。

最初に、幼児・児童、園・学校、地域の3つの観点について実態（よい点や課題）を捉え、それらを踏まえたうえで、育ってほしい姿を文章や箇条書きで記述してもらった。



■ グループワーク 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有

当日の研修では、アイスブレイクの後、小学校区や中学校区のグループに分かれて、最初に各園・小学校の育ってほしい姿を発表した。質疑応答や情報交換をした後、グループごとに育ってほしい姿を一つにまとめるために、話し合いをした。その際に、持参してもらった写真を見合い、その中から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどのような姿が捉えられるかについて話し合った。その内容を、画用紙や模造紙等を使ってまとめ、グループごとに発表をし、全体で共有した。



【まとめ】

参加者の振り返りから、園の遊びや活動が、小学校での授業や生活にどのようにつながっているのかを知るきっかけとなったという意見があった。小学校区や中学校区の共通の課題を認識し、園や小学校の思いを踏まえて、具体的な育ってほしい姿をイメージし共有することで、目指す姿が明らかになり、子どもたちに身に付けさせていく必要がある力の共通理解を図ることができた。今後は、幼稚園教育要領にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10の視点で、より細かく子どもたちを捉えていけるようにしたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

幼児教育と小学校教育の円滑な接続の充実に向けて

～特別な配慮を必要とする子どもへの支援をテーマとした研修会を通して～



県幼児教育アドバイザーを招聘し、「特別な配慮を必要とする子どもへの支援」について講話をいただいた。その後、現状や課題、指導上の配慮事項等についてグループ協議を行い、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた共通認識を深めた。

【参加者】公立幼稚園:3、公立認定こども園:2、公立保育園:7、私立幼稚園:2、

私立認定こども園:8、私立保育園:2、小学校:29、義務教育学校:1、一般:1 合計55名

■グループ協議「特別な配慮を必要とする子どもへの支援と実際」における協議内容

グループごとに、架け橋カリキュラム作成に向けて、特別な配慮を必要とする子どもへの支援について意見交換を行い、「環境の構成」や「園・学校・保護者の連携」などの視点から課題や工夫を共有した。全児童が円滑に小学校生活を始められる環境を整える重要性を再確認した。

○ 話し合い① 指導上の配慮事項「環境の構成」の視点から

【幼児教育施設担当者】

- ・絵カードや整頓された写真を用いた、視覚的に分かりやすい情報提示の充実。
- ・「こだわりを認める」「次にすることを具体的に示す」など、即時に実践できる支援の取組。
- ・絵本と棚の色分けシールなどによる、自立した片付けを促す環境づくりの工夫。

【小学校教育担当者】

- ・特別な配慮を必要とする児童の特性に応じた、安心できる学習環境の整備。
- ・配慮を必要とする児童だけでなく、学級全体に効果的な支援ができるよう、ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境の見直し。
- ・児童の強みを生かす視点を踏まえた、視覚的な提示や見通しの確保による適切な支援の実施。

○ 話し合い②「園・学校・保護者の連携」の視点から

【幼児教育施設担当者】

- ・支援が必要な子の支援プランについて複数の職員が関わり、多面的な視点から検討する体制づくりの重要性。
- ・保護者に対する傾聴・受容・共感を大切にした対応と、保護者とともに支援の方向性を考えていく関係のさらなる強化。



【小学校教育担当者】

- ・ユニバーサルデザインの考え方や、児童の得意な点・強みに注目するストレングス視点の校内での共有。
- ・近隣の園との情報交換や支援方法の共有など、連携の一層の充実。

【架け橋カリキュラム作成研修会】(2月開催予定)

・参加者:市内公私立幼児教育施設、市内小学校の幼児教育担当者

・協議内容:「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」についてのグループ協議

本研修を通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を一層充実させるために、特別な配慮を必要とする子どもへの支援について意見交換を行い、理解を深めることができた。今後も、小学校区ごとの持続可能な連携体制を整え、円滑な接続の充実を図る。あわせて、各園・学校においてカリキュラムの実施・検証に基づく成果と課題を踏まえ、具体的な取組の推進を図っていく。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

高萩市架け橋カリキュラム

～保幼小連携「小学校は0（ゼロ）からのスタートではない」をめざして～



高萩市は、公立小学校4校、公立認定こども園1園、私立幼稚教育施設4園と、比較的連携しやすい規模である。そこで、今年度は、高萩市で1つの「架け橋カリキュラム」を作成することとし、「高萩市架け橋カリキュラム」開発会議を年4回実施することとした。

■第1回「高萩市架け橋カリキュラム」開発会議 (R7.5.30 実施)

【研修内容】

- ・「高萩市架け橋カリキュラム」について
- ・協議「育てたい子どもの姿」
- ・授業参観・保育参観について



■第2回「高萩市架け橋カリキュラム」開発会議 (R7.8.1 実施)

【研修内容】

- ・講話「高萩市架け橋カリキュラム」
(茨城県幼稚教育アドバイザー 神永直美氏)
- ・協議「【共通の視点】大切にしたいこと」
- ・講師指導 (茨城県幼稚教育アドバイザー 神永直美氏)

強い身体をつくる あそび・うき・りくみ ～しあわせな体験やおもてなしをつくる～	自分のことは 自分でできる	仲間を大切にする	機会の持ちがわかる子
丈夫な身体の子	自分や友達を応援 てくれる子	困難を抱える子	伝える、伝えようとする力 ・絆・話す・主張する
ねばり強い子	友達力をもつて がんばる子	まなさことに前向きで 意欲的な子	聞く力 ・見て聞いて理解する
健常第一	何事もあきらめず やり遂げようとする子	お友達とも 合わせらるる子	誰もよきい行はれてできる子
まじめで、じぶんをしていい子 ～おもてなしをつくる～	友達と一緒に 仲間と一緒に	いろいろごとに興味を もつ子	人の話をよく聞くこと ができる
きりかえができる子	じっくり考えて 最後まで頑張れる子	自分や仲間に おもてなしをもつ子	絵よく書いて得をもたらした 行動を引き受けたりする子 (想いや)
あさらない	あさらない	お友達の気持ちを考え 関わることできる子	「まほろ」ができる子(自尊)
まちがっても失敗しても あさらない	みんなを説 だれにも同じく 自分たちも大切にすること	みんなを説 だれにも同じく 自分たちも大切にすること	自分の想いの気持ち を言葉で伝える力 自分の考えを表現できる子

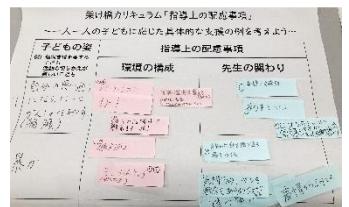
↑第1回協議内容 第3回協議内容↓

■第3回「高萩市架け橋カリキュラム」開発会議 (R7.11.11 実施)

【研修内容】

- ・特別支援教育について (高萩市教育委員会学校教育課指導主事)
- ・動画視聴 (家庭教育応援ナビより)

「気になる子どもの理解と支援」(茨城大学 新井英靖氏)
「特別な配慮を要する子どもの育ちと学びをつなぐために」(茨城女子短期大学 梶井正紀氏) (現 共栄大学)
- ・協議「指導上の配慮事項」～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう～
- ・意見交換～授業参観・保育参観から～



■第4回「高萩市架け橋カリキュラム」開発会議 (R8.2 実施予定)

【研修内容】

- ・協議「指導上の配慮事項」～就学に向けて具体的な支援を共有しよう～
- ・個別情報交換
- ・「高萩市架け橋カリキュラム」の完成



小学校の保幼小連携コーディネーター（教務主任や1学年担当）と各園の園長や副園長、主任等で構成された本開発会議は、保幼小連携をさらに深めるために大変有効な機会となった。

第1回では「育てたい子どもの姿」についてそれぞれの立場から多くの意見が出され、相互理解につながった。第2回では、写真を用いながら「大切にしたいこと」を発表し合い、「育てたい子どもの姿」の方向性を共有することができた。第3回では、特別支援教育の視点を踏まえながら具体的な支援方法を議論し、実践的な配慮策が明確化された。

今後は、概ね形となった「高萩市架け橋カリキュラム」のブラッシュアップを図りながら、各小学校・園での実践につなげていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

幼児教育と小学校との連携・接続の推進

～架け橋カリキュラムの検討・開発に係る研修をとおして～



北茨城市

本市には公立の保育所が1施設、残りの8施設は私立の幼児教育施設である。そのため、保幼小が一体となり、同じ目標の下で保育・教育活動を進めることは困難な現状がある。本市では、これまで、保幼小が互いに情報共有をする研修会や相互参観等を継続的に実施している。

本市の現状を架け橋カリキュラム作成のプロセスに当てはめると、フェーズ2「検討・開発」の段階となる。そこで、今年度は架け橋カリキュラム作成の検討のための研修会を年2回開催し、架け橋期の2年間を一体的に捉えた保育・教育を推進していく。

■ 北茨城市幼児教育・小学校教育接続推進研修

参加者：公立幼児教育施設：1名 私立幼児教育施設：8名 小学校：23名

中学校：3名 特別支援学校：1名 幼児教育相談室：2名

社会福祉協議会：2名 健康づくり支援課：2名 子育て支援課：2名

○講義「気になる子どもへの関わりとそのための連携」講師：三浦 剛 教授（東北福祉大学）

本市の早期療育指導支援システムに関わっている三浦先生より、5歳児の健診を契機とした「気になる子ども」の捉え方について講話をいただいた。その中で、架け橋カリキュラム作成に関連する保幼小における一貫性のある保育・教育の在り方を含む環境整備の重要性について事例を挙げて演習等を行うことで、参加者の理解を深めることができた。

■ 説明「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」

○架け橋カリキュラム作成のねらいや作成の手順等に関する説明

・これまでの取組の成果と課題（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム）

・本市の現状 ・架け橋カリキュラムの必要性及びねらい

・架け橋カリキュラム作成の手順 ・グループワークについて

・これからの中の取組（第2回の研修会までの各園等・小学校で共有すること）

○事後アンケート結果

・「架け橋期」の時期の捉え方について（よく理解できた 61.1% 理解できた 38.9%）

・架け橋カリキュラムは幼児期から小学校期の子どもを育てるために必要である（65.5%）

・架け橋カリキュラム作成の意義や作成手順が分かった（48.9%）

■ グループワーク「架け橋カリキュラム作成の検討について」

参加者：地域別に5グループを編成し、協議を行った。

○アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムをもとに各園等と小学校の取組を説明する。

○「育てたい子どもの姿」をテーマにブレインストーミングを行い、意見を出し合う

○各園等、小学校の現状を踏まえ、グループとしての「育てたい子どもの姿」を考える。

○グループごとに「育てたい子どもの姿」について発表する。

【全体】・保幼小で意見交換することで、「育てたい子どもの姿」が具現化できた（70.5%）

【小学校】・幼児教育施設でどのような取組をしているかが分かった。入学前に情報共有ができた良かった。

・多くの園等から入学するので全園等と架け橋カリキュラムを作成するのは難しい。

・単なる交流学習だけでなく、一緒に「育てたい子どもの姿」を共有することが子どものために大切である。

【幼児教育施設】・私立の園等ではそれぞれの特色を出し区別化を図っている。目指す姿の共有ができるがカリキュラム作成は難しい。

これまで幼児教育施設と小学校においては、交流や情報共有を中心とした保幼小連携を進めてきた。本市には、公立の幼稚園等が設置されていないため、架け橋カリキュラムの作成は非常に難しい状況にある。しかしながら、研修会や校長会等での説明により、少しずつ教職員の理解を得られつつある。今年度は、架け橋カリキュラム作成に向けて、共通の視点による「育てたい子どもの姿」とその手立てを共有できるよう検討・開発に取り組んでいきたい。

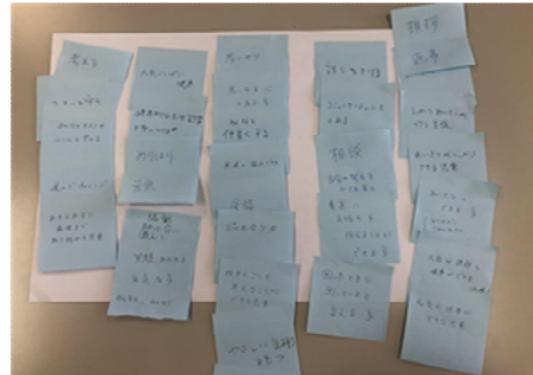
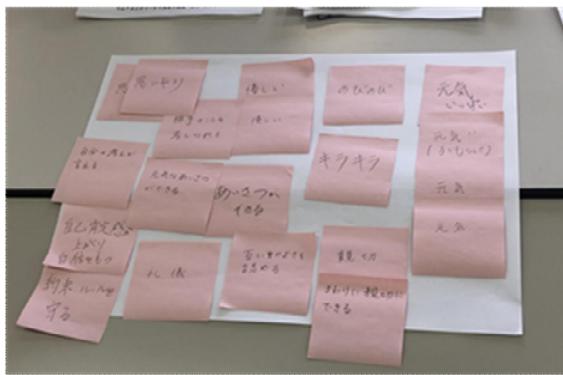
【参考資料】

■グループワークの様子



■ブレインストーミング

「育てたい子どもの姿」からイメージすることを書き出し、グループで意見を整理した。幼児教育施設、小学校それぞれの視点による「育てたい子どもの姿」の具体像を作る材料とした。



■「育てたい子どもの姿」案の作成

整理した意見から、それぞれの保育・教育目標を踏まえ、合意形成を図りながら「育てたい子どもの姿」案を作成し、第2回の研修会で再検討することとした。

令和〇年度 ○〇市(○〇小学校区) 架け橋カリキュラム ~「育てたい子どもの姿」	
5歳児	
育てたい子どもの姿 (ワークの最後にキャラクターにしまして) 元気な挨拶!! 進んで頑張る 優しい子	~自分も仲間も大切に~

元気な挨拶!! 進んで頑張る 優しい子
～自分も仲間も大切に～

令和〇年度 ○〇市(○〇小学校区) 架け橋カリキュラム ~「育てたい子どもの姿」を考える	
5歳児	
育てたい子どもの姿 (ワークの最後にキャラクターにしまして) のびのび楽しく チャレンジする子	～一人でも、誰とでも～

のびのび楽しく チャレンジする子
～一人でも、誰とでも～

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「各学校区におけるかけ橋カリキュラムの作成を目指して」
～「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」の相互理解～

潮来市

幼児教育と小学校教育の充実に向けた体制を構築するために「かけ橋カリキュラム」の作成を2回行った。第1回は、こども園・小学校の担当者のみで進め、第2回はこども園、小学校の管理職にも参加していただいた。第3回を2月に実施する予定であり、各小学校におけるかけ橋カリキュラムの策定を目指す。

〈第1回研修会〉

参 加 者：市内各認定こども園担当者・市内各小学校担当者

実 施 日：令和7年8月20日（水）

研修内容：① 実践発表 潮来市立あやめこども園

② 遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと



〈第2回研修会〉

参 加 者：市内各認定こども園担当者・市内各小学校担当者

実 施 日：令和7年11月5日（水）

研修内容：（管理職グループ）各学校区における育てたい子どもの姿の設定 等



（担当者グループ）各学校区におけるかけ橋カリキュラムの作成（第1回の続き）

■各学校区における「育てたい子どもの姿」を考える。

かけ橋カリキュラムを作成するにあたり、どのような子どもを育てたいのかを管理職グループで話し合い、以下のように決定した。

A学区 「すすんでチャレンジ！！～みんなでたのしくやってみよう！」

B学区 「やさしさのたねをまいてチャレンジの花をさかせよう」

C学区 「どうしたの？だいじょうぶ？てつだってあげる！と手をさしのべられる子」

D学区 「笑顔あふれる思いやりのある子」

■各学校区における「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を捉え直す。

各自写真を持参し、遊びや学びのプロセスで何を大切にした写真なのかを伝えながら模造紙に貼っていった。さらに、各学校区における「育てたい子どもの姿」が決定した後は、環境の構成や先生の関わりなどを話し合った。参加者からは、「日々の保育の中で子どもたちがどのような学びをしているのか、小学校ではどのように繋がっているのか、写真を見ながら説明して頂いたので、より理解しやすかった。また、保育者・教員が色々な視点で話し合うことで新たな気づきがあることも改めて学びになりました。」との感想が聞かれました。



こども園・小学校共に年度が変わると担当者も変わるので、確実な引き継ぎが必要である。令和8年度からの実施を目指し、進めていく。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「かけ橋カリキュラム」作成に関する研修会 ～「育てたい子どもの姿」について語り合う～

行方市

行方市では、令和7年9月9日（火）に園内リーダー及び保幼小接続コーディネーター等を対象に、幼児教育と小学校教育の円滑な連携・接続に向けて研修会を実施した。県幼児教育アドバイザーを招き、かけ橋カリキュラムの作成について協議した。

参加者 公立幼稚園3名、私立保育園3名、私立認定こども園4名、小学校4名

準備 ・園や小学校の要覧等 ・アプローチカリキュラム ・スタートカリキュラム

■講話「かけ橋カリキュラムの作成・実施に向けて」

講師：敬愛短期大学現代子ども学科 特任教授 神永 直美 先生

（県幼児教育アドバイザー）

- ・「幼保小のかけ橋プログラム」が目指すこと
- ・「かけ橋」で何をつなぐのか
- ・「かけ橋カリキュラム」作成・実施に向けて

○ 幼児教育施設保育者の声

- ・かけ橋カリキュラムを作成・実践すると共に、更に互いの特性を理解してカリキュラムの質の向上を目指し、改善し続けることの大切さを理解できた。



○ 小学校教員の声

- ・環境が個別最適な学び基になっていることが非常に参考になりました。小学校でも環境の大切さを伝えていきたい。

■グループ協議「育てたい子どもの姿」を語り合う

中学校区ごとに幼児教育施設職員と小学校教員がグループを編成し、園や小学校の方針を基に「育てたい子どもの姿」について話し合った。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・話し合いの中で、園と小学校で目指す姿が多くの点で似ていたため、安心した。これからの保育でどのようにしていくべきよいかを考えるよい機会になった。



○ 小学校教員の意見から

- ・育ってほしい姿、伸ばしていきたい力について共有できたので、長期的な視点をもってその力が育まれるよう日々の指導にあたっていきたい。



講話・グループ協議の様子から、子どもの育ちと学びをつなぐために幼保小で連携していくことの必要性・重要性を実感することができた。「互いの方針や課題等の情報交換ができるよかったです」という感想が多く聞かれた。今回の研修を出発点として、幼児教育と小学校教育の連携・接続の輪を広げていきたい。

フェーズ1
基盤づくり

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手掛かりに
幼児・児童の実態を踏まえ
かけ橋カリキュラムについて検討する研修会



市内各中学校区では、年々工夫改善が進み、相互参観、交流活動等の充実が図られてきている。今後、かけ橋カリキュラム作成を進めていくために、保幼小接続担当者の理解を図り、具体的なイメージをもつことができるよう本研修会を実施した。

参加者 公立幼：4名、公立保：2名、私立こ：2名、私立保：3名、小学校：7名

■研修1 「目指す子どもの姿」をもとにかけ橋カリキュラムをイメージする

(1) 各小学校、各幼児教育施設の年間指導計画等から、「目指す子どもの姿」と、どんな活動（小学校は「生活科」を中心）がつながるか具体的な場面で考える。

(2) 各活動における「環境の構成」や「先生との関わり」等配慮事項を考える。

各幼児教育施設・小学校で作成後、各エリア（中学校区）で情報交換し、共有する。

<例> 目指す子どもの姿

Ⓐ 「自信をもって意欲的に活動に取り組もうとする」

- ・活動：今日の遊びを振り返り、発表する時間を設定する。
- ・配慮：今日がんばったことや明日やりたいこと等が言葉にできるように支援する。

Ⓑ 「身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている」

- ・活動：生活科「たのしい あき いっぱい」
- ・配慮：幼児教育施設等での経験が生かせるように、考える時間を十分に確保する。



■研修2 保幼小の連携・接続に関する取組を検証し改善・充実を図る

各中学校区において、「目指す子どもの姿」を共有しながら、以下のことを協議

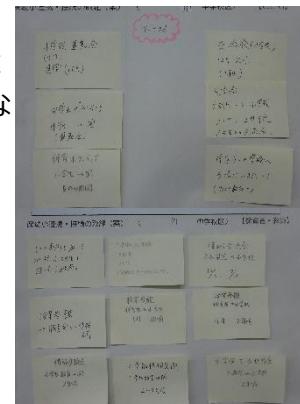
(1) R6年度やR7年度7月までの取組の検証

(2) R7年度9月以降の①子ども同士の交流②保育者・教員の連携の提案

(3) ①②を「すぐに取り組めること」と「実施するために工夫改善が必要なこと」への分類及び検討

<主な意見>

- ・市内全小学校でスタート期の参観を実施できた。継続していきたい。
- ・幼児教育施設の小学校訪問等は幼児の不安解消につながっている。
- ・小学校の生活科の「おもちゃづくり」の単元で幼児教育施設を招いて交流を行いたい。幼児教育施設は「学校探検」も兼ねて訪問して園での「学校ごっこ」遊びにつなげたい。



研修会を通して、市内の幼児教育施設と小学校が、かけ橋期における「目指す子どもの姿」を共有し、実施した相互参観、保育体験、交流活動等について検証し、改善を図っていく体制づくりが進んできている。実践をもとにかけ橋カリキュラムの作成に移っていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

中学校区ごとに「目指す子どもの姿」について語り合う

土浦市

令和7年度 土浦市保幼小合同研修会

～中学校区版架け橋カリキュラム作成に向けて～

令和7年8月8日(金) 13:30~16:00 新治地区公民館

参加者 小学校・義務教育学校教員 16名 幼児教育施設教員 29名 事務局 3名



■活動1 全体活動 架け橋カリキュラムの作成・実施に向けて理解を深めよう

- 動画視聴（約45分）

・動画内容 茨城県教育委員会作成 令和7年度市町村幼児教育担当者研修(管理職向け動画配信 敬愛短期大学 神永 直美 特任教授「架け橋カリキュラムの作成・実施に向けて」)を活用

活動1の振り返り（事後アンケートより） 保育園保育士

○架け橋カリキュラムについて勉強することができた。子どもの夢中になって遊びこむ姿は、小学校でも夢中になって学びこむ姿へ繋がっていくことを改めて感じることができた。子どもが小学校へ期待をもって行けるような活動を取り入れていくことが大事だと分かった。

■活動2 グループ活動 中学校区ごとに「目指す子どもの姿」を共有しよう

- 「目指す子どもの姿」を考える（架け橋カリキュラム作成ガイドブック ワーク5を活用）
 - 各自付箋にキーワードを記入する。→グループ共有シートに理由を話しながら、付箋を貼り付ける→集まったキーワードをグルーピングする→**目指す子どもの姿**にまとめる



中学校区の目指す子どもの姿一覧 R7.8.8		
一中学区	一人一人が輝く主人公 ～手を取り合い育む∞の可能性～	小1 保幼4
二中学区	思いやりをもってチャレンジするまなべっ子 ～みんなといっしょに～	小1 保幼7
三中学区	心身ともにたくましく元気な子 ～笑顔輝く元気な子～	小3 保幼4
四中学区	自分を大事にすることからはじめよう	小3 保幼5
五中学区	みんな大好き ～にこにこ元気に進んでがんばる子～	小3 保幼5
六中学区	自分も大事、みんなも大事 ～笑顔でのびのび学べる子～	小2 保幼2
都和中 学区	友達と助け合いながら、進んで学びに向かう子 ～心と体も にこにこ元気よく～	小1 保幼4
新治義務 学区	笑顔いっぱい友達と助け合える子 ～みんなで支え合う新治コミュニティ～	義1 保幼2

活動2の振り返り（事後アンケートより） 小学校教員

○架け橋カリキュラムの作成に向けて、中学校区の幼、保の先生方と交流する機会となり、子どもたちの様子など情報共有をしながら話し合うことができた。グループで話し合うことでどんな子どもたちになって欲しいのか意見を盛んに交流することができた。

■まとめ

- 今回作成した中学校区ごとの「育てたい子どもの姿」を参考にしながら、令和7年度中に土浦市版の架け橋カリキュラムを完成させる予定である。
- 令和8年度は8つの中学校区ごとにカリキュラム開発会議を実施し、中学校区版架け橋カリキュラムを完成させる予定である。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

龍の子の学びをつなぐ架け橋カリキュラムの作成に向けて ～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を中心に～

龍ヶ崎市

概要

3月4日（火）架け橋カリキュラム作成に向けて、市内幼児教育施設、小学校の職員を対象とした研修を実施した。また、7月15日（火）、9月25日（木）市内1中学校区（2小学校、1幼児教育施設）にて架け橋カリキュラム作成に向けた研修を実施した。

■研修1 保幼こ小接続研修 3月4日（火）

テーマ：「架け橋プログラム」の推進－望ましい保幼こ小接続を求めて－

講師：茨城大学教育学部 神永 直美 教授

「架け橋プログラム」の推進に向けて、茨城大学教育学部 神永 直美 教授から講和をいただいた。幼児教育と小学校教育の「架け橋期」の保育・教育の充実に向けて、国の方向性や茨城県の取組みについて紹介いただき、架け橋カリキュラム作成に向けたポイントについても理解を深めることができた。

■研修2 架け橋カリキュラム作成研修 7月15日（火） 9月25日（木）

テーマ：お互いを知り、カリキュラムの関連性を知る

アドバイザー：敬愛短期大学 神永 直美 特任教授

「架け橋カリキュラム」の作成に向けて、城ノ内中学校区の小学校2校（八原小学校、城ノ内小学校）と幼児教育施設1園（認定こども園ぶどうの木龍ヶ崎幼稚園）にて研修を実施した。

両日共に敬愛短期大学 神永直美 特任教授をアドバイザーとしてお招きし、「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」を参考に、グループ協議を行った。龍ヶ崎市で中学校区毎に従前から作成している「龍の子人づくり学習カリキュラム」と、幼児教育施設で行っている自発的な遊びを中心とした学びにどのようにつないでいくのか「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに検討した。

参加者からは「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に子どもの活動を検証することで、今後の連携に生かせる学びがあった」「幼稚園での育ちが、小学校での学びにどのようにつながっていくのか、少し具体的に見えてきた」などの感想があった。

まとめ

研修を通して「架け橋カリキュラム」の作成の重要性や、作成の際のポイントについて理解を深めることができた。今後は、現在1中学校区で行っている「架け橋カリキュラム作成研修」について成果と課題を取りまとめ、市内各中学校区での「架け橋カリキュラム」の作成つなげていけるようにしていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

かけ橋期のカリキュラムの作成に向けた 取手市保幼小連絡協議会での実践について ～「育てたい子どもの姿」について語り合う～



取手市では、26 幼児教育施設と 14 小学校の滑らかな接続を重視して、幼児教育と小学校教育の学びをつなげるように連絡協議会を実施している。今年度は、小学校区ごとのかけ橋期のカリキュラムの作成に向けて、4 回の協議会を実施する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとしてカリキュラムの作成を進め、5 歳児と 1 年生の 2 年間のカリキュラムを一体的に捉え、接続期の教育の資質の向上を図る。

■第1回「育てたい子どもの姿」を考えよう

小学校区ごとのかけ橋期のカリキュラムの作成に向けて、各施設や学校の教育内容や指導方法について知り、「育てたい子どもの姿」のイメージを共有した。活動している子どもたちの写真を持ち寄り協議することで、共に育てたい取手市の子どもについて語り合った。



■第2回「遊びや学びのプロセスで大切にしたこと」 について考えよう

育ちと学びのつながりを意識した「大切にしたいこと」を視点にグループ協議を行った。小学校での授業参観を振り返りながら、保育者と小学校教員とで「遊びを通した学び」や「学びの芽生え」を共有し、幼児期の生活の流れや学びが小学校へ円滑につながるように語り合った。



■第3回「指導上の配慮事項」について考えよう

「5 歳児と保育者の関わり方や環境構成」や「1 年生と教職員との関わりや安心して活動できる環境や主体的に学びに向かう環境」について語り合った。多様な子どもの姿を共有することで、子どもの実態に合わせた環境の構成や先生の関わりを考えることができた。



■幼児教育施設職員・小学校教員の感想から

- ・今年度はカリキュラム作成にあたり、小学校の先生や近隣幼児教育施設の先生と話をする機会が増え、コミュニケーションをとることができたので、接続についてのイメージが沸きやすかった。今年度作成したカリキュラムをもとに、教育実践しながら毎年改善していきたい。
- ・幼児教育施設の先生との情報交換をとおして、幼児期にどんな体験をしているのか、どのような取組をしているのかが分かった。「つなぐ」の意味をよく考え、今後の指導に生かしたい。

かけ橋期のカリキュラム作成に伴い、4 回の協議会を開催することで保育者と小学校教員の相互理解と連携強化が図られた。今後も、定期的に協議会を開催し、かけ橋期のカリキュラムの充実・改善にあたりながら、幼児期の「夢中になって遊び込む中の育ちや学び」を小学校以降の「主体的・対話的で深い学び」へとつなげることを目指す。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

保幼小接続体制の充実に向けた研修の工夫改善

～幼保小の接続の意義と方法から～



幼保小の接続カリキュラムの開発にあたって、基本的な考え方を幼児教育施設、小学校管理職、4・5歳児担当保育者、小学校1年担任で共有し、カリキュラムの開発を開始した。「教育課程の接続」という発想ではなく、これまでの実践に共通する学びを融合した保育、教育実践の改善を通して、円滑な幼保小の接続を目指す。

■「市幼児教育センター事業」

◆「保幼小合同連絡会」(ひたち野リフレビル)

- 架け橋期の接続カリキュラムの開発に向けた理論研修

茨城大学教育学野 教授 新井 英靖 先生による講演

演題「架け橋プログラム ー保幼小の接続の意義と方法ー」

内容

- ・教育課程を接続するのではなく、教育実践を重ね合わせる
- ・幼児期の学び（幼稚園教育要領）と児童期の学び（小学校学習指導要領）の接点
- ・保幼小接続の課題



◆市幼児教育アドバイザーの取組（学校と幼児教育施設の相互理解の手段として）

- 月1回の幼児教育施設訪問：保育の様子、小学校の様子を各園へ伝える。

- 4・5歳児担当者研修：小学校の取組の伝達、遊びの重要性の理解、架け橋カリキュラムの開発

■「架け橋カリキュラム開発会議」

◆架け橋カリキュラム作成会議兼4・5歳担当者研修（牛久市中央生涯学習センター）

- 育てたい子どもの姿の共有（4・5歳児担当保育者、小学校1年担任で考案）

「心もニコニコ 体もニコニコで 元気いっぱい」

- 架け橋カリキュラムの開発

- ・「絵本の読み聞かせ」と「国語の読解」
- ・「環境（幼児）」と「生活科・理科（小学生）」
- ・「数・計算する遊び（幼児）」と「文章題（小学生）」
- ・「話合い活動（幼児）」と「協働的な学び（小学生）」

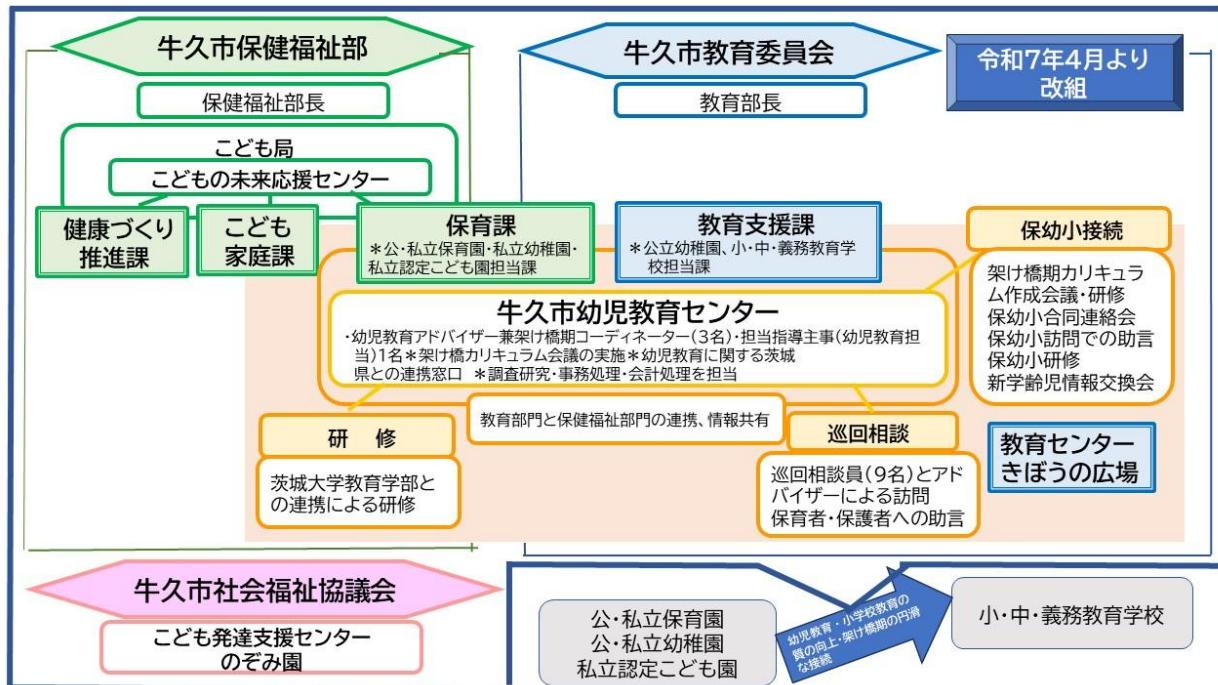
各小学校区ごとに幼児期の学びと児童期の学びを相互で確認し、共通する部分を見つける。

⇒「学び方」の違いを意識して、幼保小の特徴を融合した実践へと改善していく手立てを検討する。



理論研修を通して保幼小の接続の意義と方法について共有し、重なり合う部分を見いだして自然な流れで架け橋カリキュラムの作成が進められている。交流については、相互参観の拡充や多様な交流活動の実施など、今後活動の持ち方について検討を進めていきたい。

【牛久市 参考資料】



【資料1：牛久市幼児教育センター事業組織図】

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進 ～架け橋カリキュラムの実施に向けて～



今年度、守谷市は幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進することを目的とし、以下の2点に重点を置き実践をした。

- 架け橋カリキュラムの理解・情報共有（茨城県幼児教育アドバイザー：助川公継先生講話）
- 特別支援教育の情報共有（集合指導訪問（松前台小学校）における幼児教育施設の参加）

■「守谷市保幼小連絡協議会」

- 1 日時 令和7年9月18日（木） 14:00～16:30
- 2 参加者 小学校：保幼小コーディネーター 9名
幼児教育施設 27名
- 3 講師 茨城女子短期大学 副学長 子ども学科
教授 助川 公継 先生
- 4 テーマ 「架け橋カリキュラムの作成・実施に向けて」
- 5 グループ協議 「育てたい子どもの姿」
- 6 協議から
 - ・同じ校区内の先生方と「育てたい子どもの姿」を共有できた。
一方で、幼児教育施設と学校間における子どもの姿のイメージのずれや交流に向けた時間的余裕の確保が課題であると明確になった。
 - ・子どもの成長を一貫して支えるには、接続期の更なる連携が不可欠である。
 - ・定期的な協議会の設定や積極的に幼児教育施設・学校間で連携をしていく。



■「特別支援教育集合指導訪問（松前台小学校）」

- 1 日時 令和7年10月29日（水） 13:00～16:00
- 2 場所 守谷市立松前台小学校
- 3 参加者 市内13校特別支援教育担当者 13名
県立高等学校教職員 1名
県立特別支援学校教職員 1名 幼児教育施設職員 20名
- 4 協議内容 自立活動について
幼児教育施設における特別支援教育について
- 5 協議から
 - ・幼児教育施設においても多様なニーズをもつ児童が増えており、特に配慮をする児童や保護者への相談対応に困り感があるとのことで、幼児教育施設の先生方に参加していただいた。
 - ・幼児教育施設の先生方は、小中学校での配慮を要する児童生徒への具体的な対応方法や支援の進め方について情報共有した。また、小中学校の特別支援学級の役割や機能について理解を深め、切れ目ない支援体制を構築するための共通認識をもつことができた。



昨年度と比較すると保幼小連携が進展し、今年度は理解促進と情報共有の年となった。共通の「育てたい姿」を明確にし、特別支援に関する相互理解も深まった一方で、課題も明らかになった。今後は、各校区で保幼小連携が自走できるように支援したい。来年度は「架け橋カリキュラム」作成を本格的に開始し、切れ目ない支援体制の構築を進めていく。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

幼小の相互理解を基盤としたかけ橋カリキュラムの作成 ～関係機関の協力体制のもとに～

稲敷市

令和5年度に市全体の保幼小連携・接続体制が整備され、温度差があった4中学校区の幼小の子供同士の交流、教員の相互参観等が活性化し、「幼小の円滑な接続」が多くの教員に意識されるようになってきた。今年度は「かけ橋カリキュラム」の作成に向けて市の幼児教育に関わる全ての組織を総動員して幼小合同研修会（作成会議）で協議し、作成を進めている。

■ 幼児教育に関わる全組織を利用したカリキュラム作成会議のスケジュール

- 5/23 第1回稲敷市保幼小連携・接続協議会・管理職研修会（於：市教育センター）
 - ・「育てたい子どもの姿」についての協議
- 8月上旬 中学校区保幼小中連絡会・幼小部会研修会（各会場）
 - ・「育てたい子どもの姿」「育みたい・資質能力」等についての協議
- 8/26 稲敷市幼児教育合同研修会（指導室、市教育研究会共催 於：市教育センター）
 - ・「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」等についての協議
- 9月～11月 小学校区毎に幼小で協議しながら作成（オンライン）
- 11/26 第2回稲敷市保幼小連携・接続協議会・研修会（於：市教育センター）
 - ・研修会及びかけ橋カリキュラムの最終調整。（小学校区毎）

■ カリキュラム作成に関わって（8/26 合同研修会、11/26 保幼小連携・接続協議会の感想から）

○ 園の先生から

- ・このような機会は互いの様子を共有できるので、とても有意義だと感じる。
- ・実際に作成する側となり、改めて子供たちの姿を思い出しながら考えることができた。
- ・カリキュラムの形ができてきたので、園全体で共有し、よりよい実践につなげたい。

○ 小学校の先生から

- ・園での生活の様子がわかり、とても勉強になった。1年担任になる前に知っておきたかったと反省した。
- ・毎回、園と小学校で協議があり、互いの考え方を知るよい機会になっている。さらに連携を深めたい。
- ・「自分で考えて活動していく」という力を生かせるように「園ではどうしていたの？」と問い合わせながら学級経営をしていきたいと思った。
- ・みんなで考えを出し合ってカリキュラムを練り上げていくことができた。情報交換もたくさんできて相互理解が進んだ。



本市では私立幼児教育施設を含めて幼小の教員同士の相互理解を深めることを第一に、市教育研究会や中学校区連絡会など、現在ある組織や会議等を活用して効率的に作業を進めてきた。幼児教育指導員が小学校に出向いて作成会議に参加するなどして実態に合ったカリキュラムになるよう支援している。できあがったカリキュラムをもとにアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを見直し、実践し、幼小の連携をさらに強化しながら改善・発展のサイクルの定着を目指したい。また、今年度は就学時健康診断の時に「かけ橋期」について保護者に周知するよう努めた。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「幼児教育と小学校教育をつなげる架け橋カリキュラムの作成」

～（中学校区における「共通の視点」検討を通して）～

かすみがうら市

昨年度まで、連絡協議会や相互参観を重ね、中学校区での連携体制作りができてきた。そこで、今年度は、「育てたい子どもの姿」や「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」について話し合いを行い、明確化した上で、お互いに共通の視点をもって支援に当たつたり、相互参観をしたりすることができるよう計画した。

参加者：保育所・保育園：5名、幼稚園：3名、小学校：4名

準備物：協議用ワークシート（架け橋カリキュラム作成ガイドブック ワーク5・6）

■ 「共通の視点」の検討（育てたい子どもの姿）：連絡協議会（7/31）

12名の参加者を2グループに分け、ワーク5を活用して、「育てたい子どもの姿」を検討した。各自で「育てたい子どもの姿」を考え、児童や園児の指導・支援において自分が大事にしていることをキーワードとして、グループで話し合いを行った。「まず、やってみる」「諦めず、根気強く」「興味をもって挑戦する」「いろいろなことに～したいと思える」「前向きな言葉が言える子にしたい」など、グループでまとめたことを共有し、下稻吉中学区のキヤッチフレーズは、『「やってみよう！」が合い言葉～みんなでチャレンジ、きっとできる～』に決定した。相互参観の中でも、指導者・参観者共に意識できるように共有を図った。

■ 視点をもった相互参観

○ 幼児教育施設保育参観

- ・フルミっこ保育園（8/1）「名前の練習・紙工作」
- ・千代田保育園（8/6）「手遊び・ワーク」
- ・神立幼稚園（8/19）「紙工作」
- ・わかぐり保育所（8/19）「ワーク・紙工作」
- ・くりのみ自然幼稚園（9/22）「わたしたちにできる

【園児の活動の様子】



S D G s」

○ 小学校授業参観予定

- ・下稻吉小学校（10/30）

連絡協議会で、ワーク6を活用し、話し合う。

「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」

- ・下稻吉東小学校（11/21）



今回の取組で明確になった「育てたい子どもの姿」と、今後検討する「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」は、中学校区全体で共有する教育の基盤となります。これを踏まえ、幼児教育施設がどのような活動を取り入れるのが望ましいのかについて、保幼小の連携を強化しながら、市の保幼小連携協議会での情報交換を機会に具体的に検討することで、架け橋カリキュラムの作成と実施へとつなげていきます。特に、「前倒し」への配慮を念頭に、小学校入学への円滑な移行を図りつつ、幼児教育の良さを活かした活動内容を明確にすることで、小学校教育も含めた教育内容の継続的な改善につなげていきたいです。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発掘サイクルの定着

幼児教育と小学校教育の接続のための研修会

～架け橋期のカリキュラムの作成・実施に向けて～

つくばみらい市

令和7年10月31日（金）に、保幼小接続コーディネーター及び園内リーダー等を対象に、つくばみらい市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進することを目的とした「幼児教育と小学校教育の接続のための研修会」を実施した。

参加者 公立幼：2名、公立保：5名、私立保：3名、私立こ：1名、私立幼：1名

小学校：9名

準備 持参資料：茨城県保幼小接続カリキュラム

子どもがのびのびと遊んだり学んだりしている写真

■講話 県幼児教育アドバイザー 助川 公継 先生 「架け橋期のカリキュラムの作成・実施に向けて」

1 架け橋期のカリキュラムとは

- ・接続カリキュラムと架け橋カリキュラムの違い
- ・幼児教育と小学校教育の特徴
- ・架け橋期のカリキュラムのねらい

2 架け橋期のカリキュラム作成のプロセス

- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校へのつながり
- ・架け橋期のカリキュラムを考える視点
- ・期待する子ども像
- ・保幼小連携の目的の共有
- ・円滑な接続に向けて



■協議における主な意見

協議の形式:グループ協議

協議の視点:「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、各自が持参した写真から「子どもの育ちや学び」について考え、春・夏・冬の架け橋期のカリキュラムを作成する。

○幼児教育施設から

- ・普段の保育計画でも大切にしている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や育みたい資質能力について再認識することができた。
- ・幼児教育担当と小学校教育担当で「遊び」についての捉え方が違うとカリキュラム作成に向けて方向性が一致しないので、共通理解を図ることが大切だと思った。

○小学校教員から

- ・小学校と幼児教育施設で育てたい子どもの姿は、共通しているということがよく分かった。保幼小のつながりをよく理解し、子どもたちの成長のために今後もがんばっていきたい。

本研修会実施により、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の大切さを再認識し、幼児教育と小学校教育の相互理解や連携につなげることができた。今後も、保育者と教員が共に協議したり情報交換したりする機会を設定し、市の幼児教育と小学校教育の接続・連携を図っていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

保幼小中の連携体制の構築

～協働による相互理解と連携を目指して～

美浦村

概要 美浦村では今年度、小学校3校が統合し、美浦小学校が開校した。昨年度より、架け橋カリキュラム作成に着手し、新しい小学校の「期待する子ども像」や、「子どもの具体的な活動及び行事」、「保幼小中連携行事」について担当者間で共通理解を図り、カリキュラムを体系化することができた。今年度は、子どもたちと関わる上で配慮するべき事項を中心に、保育者と教員の協働によるより連携を意識した話し合いが行われた。

1 保幼小中連携と来年度の連携計画

• 今年度の保幼小中連携の成果と課題

【成果1】 小学校での授業参観の機会を増やしたことにより、幼稚園・保育所担当者の子どもの「学び」に対する理解が深まった。

【成果2】 保幼小間での引継文書作成当たっての疑問点や改善点を検討することができた。

【先生方の声】

- ・子どもへの活動時間の伝え方が、保幼小で共通していることが分かった。(小学校担当者)
- ・配慮事項を検討するためには、授業参観や話合う機会を、もっと増やしてほしい。(幼稚園担当者)

R7年度

R8年度

前期

R8年度

後期

【課題】 架け橋カリキュラムの教職員間への理解促進・配慮を要する児童生徒の共通理解

• 連携計画1

【教職員交流事業1】 架け橋カリキュラムの共通理解（3～4月）・小中連絡会（5月）

【教職員交流事業2】 相互参観及び意見交換会（5～7月）

【児童生徒交流事業1】 保育実習、小中学校間交流会（行事及び合同授業等）

• 連携計画2

【教職員交流事業3】 計画訪問等

【教職員交流事業4】 架け橋カリキュラムの見直し、修正及び引継ぎ（保幼小中連絡協議会）

【児童生徒交流事業2】 保幼小交流会（2月）小中交流会（オープンスクール等）

2 架け橋カリキュラムの共通理解と見直しのために

<第1回 保幼小中連携協議会（5月30日実施）>

【研修内容】

美浦村架け橋カリキュラムの共通理解と配慮事項の検討①

【参加者】

保育所担当者、幼稚園担当者、小学校担当者、中学校担当者

【小学校担当者の感想】

保幼小のつながりを意識して配慮事項について検討するためには、両方での授業参観を定期的に実施し、実態を把握する必要がある。

<第2回 保幼小中連携協議会（11月14日実施）>

【研修内容】

美浦村架け橋カリキュラムの配慮事項の検討②

【参加者】

保育所担当者、幼稚園担当者、小学校担当者、中学校担当者

【保育所担当者の感想】

先生の関わりや環境の工夫点について、保幼小中で共通しているところや成長に合わせて変えていくところがあることが分かった。



【配慮事項についての話し合い】

・小学校では、朝の会で1日の予定を掲示物を使って確認していることが分かった。保育所でも取り入れていきたい。(保育所担当者)

・保育所では、子どもたちがスムーズに片付けを行えるように整頓例を掲示したり、種類ごとに色分けしたりしていることが分かった。(小学校担当者)

令和7年度は美浦小学校が開校したことにより、授業参観や研修等での教職員間の交流がより活発に行われた。子どもの実態に即した架け橋カリキュラムを作成するために、参観の視点を明確にした授業参観を実施し、それをもとに保幼小中連携協議会を実施した。担当者同士で参観した子どもたちの遊び（学び）をもとに、「子どもたちと関わるうえで、大切にしていること」を語り合い、より深く相互理解ができた。今後も、定期的に保幼小中連携協議会を開催し架け橋カリキュラムを見直し、修正を行っていきたい。

フェーズ1
基板作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

かわち版架け橋プログラムの編成

自分で考えて行動する子
～楽しい がんばる やってみよう！～



河内町には、1つの義務教育学校と1つの公立こども園があり、道路をはさんで隣接している。これまでも、幼児教育施設と小学校（義務教育学校前期課程）での相互参観や園児と児童との交流を行ってきた。今年度は、新小学1年生が円滑に学校生活をスタートできるように、保育者と教員の協働による「架け橋カリキュラム」の作成を行った。

■「育てたい子どもの姿」をもとにした、相互授業参観や交流活動、話し合い

前年度末に設定した河内町の子どもの架け橋期における育てたい子どもの姿「自分で考えて行動する子～楽しい がんばる やってみよう！～」を視点に相互の授業参観や交流活動を行い、そこで得たものを基に協議を進めることで、円滑に話し合いを進めることができた。

（研究協議から）

- 表現は違っても、ねらいは小学校教育と幼児教育で大きく変わらないことに気がついた。
- 子どもへの寄り添い方、言葉かけの仕方など参考になった。



■架け橋プログラムの作成に向けて

○ 第1回 園小連絡会 5月29日実施

・研修内容

架け橋プログラムの目的・作成内容の共有

・出席者から

今年度の活動の方向性が見え、作成の重要性について理解することができた。

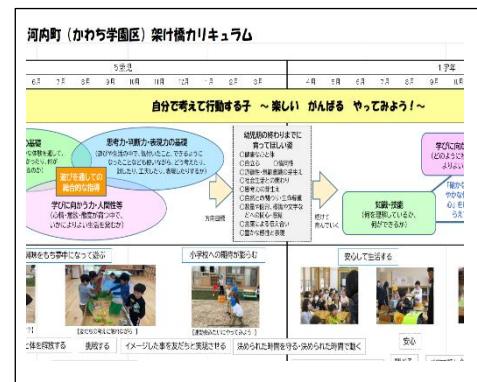
○ 第2回 園小連絡会 11月14日

・研修内容

架け橋プログラムの作成

・出席者から

こども園と小学校とが連携して作成し、今後の活動にもスムーズにつなげていきたい。



前年度末に架け橋期における「育てたい子どもの姿」を共有したことで、これまで行ってきた相互参観や交流活動等がより充実したものになり、カリキュラムの作成にも明確な方向性をもって進めることができた。今後は、それを実践に生かしていくことで、見直しを進め、より充実したものにしていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

育てたい子供の姿を決めよう

～授業参観と授業者との情報交換を通して～

利根町

利根町は、3つの小学校が統合して3年目を迎えました。昨年度から保幼小接続コーディネーターを中心に私立5園との連携が深まりました。

今年度は、架け橋カリキュラムの作成に向けて、交流事業を行っております。小学校の1学年の担任と各園の年長児を担当した保育者と児童の情報交換を行い、お互いに園児、児童の「育てたい姿」を語り合うことができました。

■ 「小学校1学年の授業を参観しよう」

- 授業名「みんな いきてる」
 - ・課題について、個人で考える
『いきていると、どんないいことが
あるでしょう』
 - ・グループで交流する
 - ・発表をする
 - ・振り返りをする



■ 「育てたい子どもの姿を語り合おう」

- 各園の保育者と情報交換
 - ・小学校から全体の児童の様子について
 - ・園から全体の児童の様子について
 - ・小学校から気になる児童の様子について
 - ・園から気になる児童の様子について
- 「育てたい子どもの姿」を語り合う
 - ・個別に考える
 - ・全体で情報交換
 - ・育てたい子どもの姿を決定する



今年度、初めて、1学年を担当している教諭と年長児を担当した保育者の情報交換を行いました。児童を知っている保育者からたくさんの児童の様子を知ることができたと1学年の教諭は充実した様子でした。情報交換のあと、「育てたい子どもの姿」を語り合うことで、架け橋カリキュラムの目標が決まりました。今後も小学校と園の交流を深め、架け橋カリキュラムの作成を進めてまいります。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「架け橋プログラムの実践に向けて」

～令和7年度 幼児教育と小学校教育の接続のための研修会の
実践を通して～

古河市

令和7年7月31日（金）13:30～16:00、古河市野本電設工業コスモスプラザにおいて、古河市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進するために、幼児教育・保育施設及び小学校職員を対象とした教育課程編成等に関する合同研修会を開催した。

参加者 幼児教育施設 35名、小学校 23名、指導課 4名、生涯学習課 1名、保育課 2名

準備 研修会に参加するにあたって、携行品として依頼しておいたもの

- ・幼児教育と小学校教育の接続計画書
- ・年間行事計画
- ・グランドデザイン、概要等
- ・第1学年の生活科・国語科・算数科の教科書
- ・筆記用具、各施設で使用している名札

■実践発表「架け橋プログラムの実践」

古河第七小学校と駒羽根小の先生方より昨年度の保幼小連携の取組に関する実践について発表していただいた。



【小学校職員の感想】

・幼稚園や保育園で身に付けた力を生かし、小学校生活を進めていくためには、各機関が同じ目的に向けて、相互理解をし協力していくことが欠かせないと感じました。

【幼児教育職員の感想】

・幼稚園、保育園と小学校との連携が密になることで、スムーズな就学へとつながったり、子どもたち一人一人についての理解が深まったりするなど、架け橋プログラムの大切さがよく分かりました。

■グループ協議①「就学前後の園・学校の連携について」

②「架け橋プログラムの実践に向けて」

各小学校区を基本に、小学校教員と幼児教育施設職員が組む形でグループを編成し、上記2つの内容でグループ協議、架け橋カリキュラムの作成を行った。



【小学校職員の感想】

・幼児教育施設の活動と小学校での単元構成を照らし合わせたり、教育内容や指導方法を伝えあったりすることで、より幅広いアイデアが浮かび、児童との関わりを振り返り、よりよいものにしていこうと思いました。

【幼児教育職員の感想】

・小学校の生活科の教科書を見せていただき、幼稚園で行っているような季節の生き物や植物に触れるなど、共通していることが多いと感じました。
・小学校の先生方がどのようなことで困っているのか、どのようなことを求めているのかを知ることが出来たので、年長はもちろん、年長までの積み重ねも大切にして保育していこうと思いました。

昨年度は、県幼児教育アドバイザーを招いて講話を聴き、小学校区を基本として架け橋カリキュラムの約半分を作成した。今年度は、昨年度に引き続き架け橋カリキュラムを作成して素案を完成させた。素案を作成する過程において、小学校職員と幼児教育職員との相互理解が進み、連携の強化を図ることができた。来年度は、それらの実施・検証の段階となる。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けた取組

～相互授業参観ならびに保幼小連携協議会の実践～

下妻市

下妻市では、計画訪問に併せて、市内の幼児教育施設保育者と小学校教員の相互授業参観を実施し、後日、授業参観後の話し合いや情報交換会を実施している。また、年3回「保幼小連携協議会」を実施し、保幼小接続カリキュラムの改善に向けた検討や情報共有により、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進している。保幼小連携協議会、相互授業参観のどちらにおいても、「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を手がかりとして、幼児教育と小学校教育の相互理解を深めている。

■市内幼児教育施設保育者と小学校教員の相互授業参観（R7.5月～7月実施）

＜参加者：市内幼児教育施設保育者 36名、市内小学校教員 10名＞

「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」の10項目を手がかりとして、幼児教育で培ってきた力が、小学校での学びにどのように生かされているかを意識しながら相互授業参観を行った。

■相互授業参観後の話し合い・情報交換会（R7.7.17実施）

＜参加者：市内幼児教育施設保育者 13名、市内小学校教員 10名＞

別日に相互授業参観についての話し合いや情報交換会を実施した。小学校ブロックを幼児教育施設保育者が自由に回ることで、互いの感想を具体的に伝えることができたようである。

○ 幼児教育施設保育者の感想から

- ・1年生でどのような活動をしているのか見られてよかったです。また、就学した子どもたちの成長した姿を見取ることができました。
- ・授業後の話し合いで、気になる子の様子について話し合った。
また、スムーズな就学に向けて、幼児教育施設で経験しておいた方がよいことについて、具体的に意見交換をすることができた。



○ 小学校教員の感想から

- ・幼児教育施設の先生の目を通した児童の成長の様子を聞くことができた。子どもたちはさまざまな経験をしてから小学校に入学していくことが分かり、小学校で生かしていくことの大切さを感じた。

■第1回保幼小連携協議会（R7.8.4実施）

＜参加者：市内幼児教育施設保育者 12名、市内小学校教員 9名、市関係職員 6名＞

令和7年1月の「令和6年度第2回保幼小連携協議会」では、県幼児教育アドバイザーの助川公継先生を講師にお招きして、「架け橋カリキュラム」作成に向けた研修を実施した。今年度は研修したことを基に、各幼児教育施設や各小学校での実践事例についてグループで共有し、幼児教育施設での活動が、小学校教育にどのようにつながっていくかについて話し合いを進めた。

○ グループワークI 「育てたい子どもの姿」を考えよう

各幼児教育施設や小学校の教育目標や子どもたちの実態を基に、グループで「育てたい子どもの姿」について話し合った。「元気」「思いやり」「最後まで頑張る」などの言葉に加えて、「自分の思いを表現できる」や「考えを分かりやすく伝え合える」などの、他の人のコミュニケーションに関するキーワードを使ってキャッチフレーズにするグループが多く見られた。

○ グループワークII 「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」について話し合おう

各幼児教育施設や小学校から持ち寄った遊びや学びの姿を写した写真を紹介し合った。季節感を大切にした行事や体験活動の写真からは、保育者ならびに教師と子ども、子ども同士の関わりを深める様子が見られた。「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」についての話し合いで、どのような環境や条件、要因が深い遊びや学びに影響してくるのかについて意見を述べ合った。



今年度は、市内すべての幼児教育施設と小学校を対象として、相互参観ならびに協議・情報交換会を実施することができ、幼児教育と小学校教育の育ちや学びについて、さらに互いの理解を深めることができた。2月に実施する「第2回保幼小連携協議会」では、第1回の話し合いを生かして、「環境の構成」や「先生の関わり」など指導上の配慮事項についてまとめていく予定である。そして、「架け橋カリキュラム」に加えて、「アプローチカリキュラム」や「スタートカリキュラム」等の「保幼小接続カリキュラム」の見直しも重ねながら、カリキュラムを日常的に活用しつつ、円滑な接続と連携を推進していきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

常総市架け橋カリキュラムの作成

～「育てたい子どもの姿」を共有し、「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」の協議を通して～

常総市



研修会において小学校教員と幼児教育施設職員が参集し、架け橋カリキュラムを作成した。

対象：13の小学校、16の幼児教育施設（2公立幼稚園、4公立保育所、4幼保連携型認定こども園、1私立幼稚園、5私立保育所）

作成グループ：6ブロック（Joso連携フラワーマップのブロック。小学校区を基に近隣でのブロック分け）

1 「育てたい子どもの姿」を共有する

準備：学校のグランドデザインや幼児教育施設の園の目標等が分かるものを持ち寄る。

協議用の模造紙（ブロックで1枚）、付箋

手順：①全体で市の学校教育概要や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する。

- ②アイスブレイク
- ③自分の学校（園）の目標のキーワードやこうなってほしいという思いを各自短く付箋に書く。
- ④グルーピングする。
- ⑤分かりやすい一文にする。



成果：アイスブレイクを行うことで、先生方がすぐに打ち解け

ていた。育てたい子どもの姿はどの施設でも出ているキーワードが似ていて、先生方も共通している部分があることを実感していた。

課題：「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」のワーク5を参考に行ったが、最後にまとめるのが難しかった。

2 「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を考える

準備：遊びこんでいる（学びこんでいる）写真を2枚程度持ち寄る。

写真を並べていく模造紙（5歳児で1枚、1学年で1枚）、付箋

手順：①持参した写真について、どんな場面か、何を大切にした写真か説明しながら、模造紙に並べる。

- ②質問やアドバイスを協議しながら、「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を付箋に書く。
- ③付箋に書いたキーワードを整理する。
- ④時期や写真の取組を行う際の指導上の配慮事項「環境の構成」「先生の関わり」を考える。



成果：小学校の先生が、幼児教育施設で大切にしてきたことを踏まえて指導していくこうという意識をもつことができた。2年間の架け橋期で共通の視点をもって指導していくためにも連携の重要さを感じることができた。

課題：写真の大きさを指定する必要があった。大切にしたいことのキーワードを見つけるのが難しかった。

ブロックごとに模造紙にまとめたものを市教委で集約し形にした。ガイドブックのカリキュラム（イメージ）の形式が大変参考になった。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を視点に 小学校区で育てたい子どもの姿を考える ～架け橋カリキュラムの作成を通して～



目的：小学校・幼児教育施設の教育課程の違いを再確認し、共通の教育目標を設定し、保幼小接続に向けた交流を活発にする。

参加者：市内小学校保幼小接続コーディネーター（13校）、
市内幼児教育施設保幼小接続担当者（10園）

準備物：模造紙、「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」記入例・ワークシート
各小学校・幼児教育施設における教育目標を表す写真（2・3枚）

■教育課程の違いの再確認

10月1日に研修会を行い、研修会の前半では、教育課程の違いを再確認できるよう市教委幼児教育担当からの説明を行いました。その後、小学校区のグループに分かれ、各小学校・幼児教育施設における教育目標を表す写真を基に活動を紹介し合い、小学校区で共通の「育てたい子どもの姿」を話し合いました。

「幼児期の終わりまでに育つてほしい10の姿」から共通の教育目標を設定し、掲示物を作成しました。話合いの内容や共通の目標を設定した理由などを小学校区ごとに発表し合いました。



掲示物は、市教委幼児教育担当から校長会で管理職に周知し、今後の保幼小接続に関する交流を活発にしていくよう呼びかけました。

■「架け橋カリキュラム」の作成

研修会の後半には、前半で作成した掲示物を基に、より具体的に話し合いながら「架け橋カリキュラム」を作成しました。

○小学校区ごとの共通の教育目標の設定

- ・現在重視して取り組んでいる目標
- ・現在課題となっている目標
- ・共通で「育てたい子どもの姿」に近づくための目標

○「架け橋カリキュラム」の作成

- ・設定した共通の目標を基に、関連する具体的な活動
- ・目標を意識した、教員の関わり方や家庭との連携



研修後、先生方から「幼児教育施設で行っている活動を知ってもらえてよかったです。」「行事とどうえるのではなく、今後は気軽に交流していきたい。」などの感想がありました。

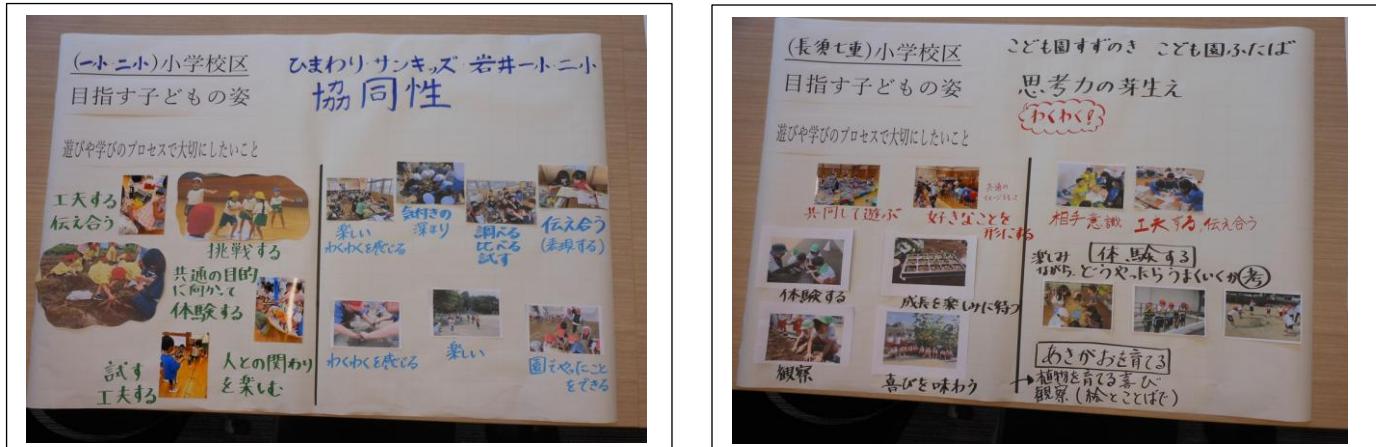
研修会を行ったことで、小学校・幼児教育施設がお互いの教育についての理解を深めることができました。また、掲示物の作成や「架け橋カリキュラム」を協働して作成することで、普段の活動のつながりを発見し、「切れ目ない」教育を考える視点において充実した研修となりました。

第2回研修会（2・3月に実施予定）では、次年度の行事計画を基に、保幼小接続に向けた交流の具体的な計画を立て、実践していきたいです。

このように、現在のフェーズ2から次年度はフェーズ3・4へと発展していくように取り組んでいきます。

【坂東市 参考資料】

○研修会で作成した掲示物



○研修会で使用したワークシート・記入例

「架け橋期のカリキュラム」をつくろう												
小学校区で育んでいきたい子どもの姿												
学年 月	5歳児						1学年					
① 4 5 6 7 8 ② 9 10 11 12 ③ 1 2 3	① 4 5 6 7 8 ② 9 10 11 12 ③ 1 2 3	① 4 5 6 7 8 ② 9 10 11 12 ③ 1 2 3										
目標す子どもの姿 (育てたい姿勢・能力)												
活動例												
遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験												
環境の構成												
先生とのかかわり												
家庭とのかかわり												

「架け橋期のカリキュラム」をつくろう【記入例】												
坂東 小学校区で育んでいきたい子どもの姿												
学年 月	5歳児						1学年					
① 4 5 6 7 8 ② 9 10 11 12 ③ 1 2 3	① 4 5 6 7 8 ② 9 10 11 12 ③ 1 2 3	① 4 5 6 7 8 ② 9 10 11 12 ③ 1 2 3										
目標す子どもの姿 (育てたい姿勢・能力)	<ul style="list-style-type: none"> 最後まであきらめずにやり遂げようとする。 遊びを通して、決まりを守ることの大切さ、協力することの大切さがわかる。 共通の思いの実現に向けて、試行錯誤しながら話し合う。 											
活動例	<ul style="list-style-type: none"> 運動会② お店屋さんごっこ① クリスマス会② 						<ul style="list-style-type: none"> 生き物となかまし② <p>【生活科を中心に（関連する教科も可）】</p>					
遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験	<ul style="list-style-type: none"> 連続性のある遊び 成し遂げる達成感を味わう 						<ul style="list-style-type: none"> イメージをもつ 興味を持続させる 話し合って決める経験 					
環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> 小学校との連携（運動会見学）① 絵本や図鑑の用意 						<ul style="list-style-type: none"> 材料集め 伝え合いの場の設定 掲示物 					
先生とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 自主性を大切にし、援助しきれない 導入を工夫し、遊びの展開を見守る 						<ul style="list-style-type: none"> 相手意識 目的意識をもたせる 静まし、声掛け 					
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> おたより・HP 保育への参加①②③ 【事例〇】育ちのアルバム 						<ul style="list-style-type: none"> おたより・HP 家庭教育学級や懇談会等①②③ アンケート②③ 					

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

保幼小連携のための研修会 ～架け橋カリキュラム作成に向けて～

八千代町

概要

幼児教育施設と小学校の先生方の相互参観や園児と児童との交流はこれまでも行っていた。幼児教育・小学校教育について理解し、それぞれの良さを取り入れた架け橋カリキュラムの作成が求められる。そこで、保幼小のより一層の連携を図るために研修会を実施した。この研修会は幼児教育アドバイザーによる講話の後、参加者が持ち寄った写真をもとに話し合うグループ協議を行った。

**参加者 幼児教育施設保育者：7名、小学校教諭：5名、
教育長、学校教育課(課長、指導主事)、生涯学習課（課長、社会教育主事、
社会教育指導員）**

実施日令和7年11月7日（金）14:30～16:30

**準備 県幼児教育アドバイザー派遣事業の申請、講師との事前打ち合わせ、
小学校、幼児教育施設への周知、子どもが活動している写真**

■講話「架け橋カリキュラムの作成・実施に向けて」

～育てたい子どもの姿を共有する～

講師 県幼児教育アドバイザー

茨城女子短期大学 副学長 こども学科 教授 助川 公継 先生



■グループ協議

○幼児教育施設の保育者と小学校の先生方が持ち寄った子どもが夢中で遊びや学習に取り組んでいる姿の写真から、これから育てていきたい子どもの姿について協議した。

○取り組んでいる活動に、それぞれの幼児教育施設や小学校の特色や地域性が表れていた。また、取組に対する先生方からの仕掛けや事前の準備など創意工夫が図られていた。

まとめ

研修を通じて、幼児教育と小学校教育の連携の意義や架け橋カリキュラムを協働で作成することの重要性を実感することができた。今後も、架け橋カリキュラムの作成・実施のために継続的に連携を図っていく。

家庭教育支援と保幼小連携・接続の一体的推進に向けて ～家庭教育支援員による小学校授業参観～

五霞町

家庭教育支援員小学校授業参観	
目的	就学前に全戸訪問（訪問型家庭教育支援）した家庭の児童の小学校入学後の様子を参観することで、地域における家庭教育の充実を図り、子育て家族や子どもたちに地域社会全体で見守り支える体制の構築に資すること。
日時	令和7年4月25日（金） 8:30～9:30
場所	五霞町立五霞小学校

■家庭教育支援員による授業参観

○授業参観

- ・第1学年の授業の様子を見学した。
- ・代表2名が特別支援学級の様子を見学した。

○感想のまとめ

- ・「感想記入シート」を作成した。

○管理職との懇談

- ・校長室にて校長、教頭と懇談した。



■感想の共有

○「感想記入シート」のまとめ

- ・社会教育主事が支援員の感想をまとめた。

○小学校と共有

- ・感想をまとめたものを小学校に送付した。
- ・管理職を通して教職員で共有した。

【感想シートの内容】

○ 本日は貴重な時間をいただきありがとうございました。同じ教材でいろいろな展開を拝見させていただき参考になりました。児童の実態にあった取り組みで楽しく授業に参加していたと思います。うたにあわせてあいうえおとても楽しい授業でした。1、2組の声が気になりました。良い面もあるのですが。まだ1ヶ月もたっておりませんのにきちんとしつけられてびっくりしました。本当にご苦労様です。○ 参観者の私達が入っていても、キヨロキヨロする姿は見られなかつた。1組、2組の授業を見せていただきましたが、担任の先生方の工夫が至る所に見られ子ども達の集中が途切れることがなかった。どちらのクラスも楽しい雰囲気でした。何かあるとサポートの先生がすぐにその子の側に行き声をかけていた。目配り気配りが行き届いていると感じた。校長先生や教頭先生のお話からきめ細かく暖かく見守っていただけているということが良くわかりました。今日はありがとうございました。私にとっても有意義な時間でした。○ 新一年生の生の姿をみせていただけて大変ありがたかったです。家庭訪問した時の親（だれであるかは忘れてしまっていますが）の心配へのアドバイスも具体的にできると思います。すでにクラスカラーもみえてきていて楽しく参観できました。細かくわかりやすい指導とフォローに頭が下がります。子供たちの成長が楽しみです。本当にありがとうございました。○ 2クラスを観させていただきました。子ども達も落ちついて授業をうけていた。授業の進め方も2クラスそれぞれ子ども達も楽しそうに授業をうけていた。毎年1年生をみせていただき先生方のご苦労がよくわかりました。2クラスの教室が開放的でとてもよかったです。○ 教室やロッカーの中など、きちんと整理整頓されていて気持ちがよかったです。授業も明るく元気で、とても良い雰囲気でした。通級教室の設立など、子供ひとりひとりの個性に合わせた指導ができるような体制になっているのを知る事ができました。入学して、まだ一ヶ月余りですが、子供達全員よく頑張っていました。先生方の頑張りにも敬服いたします。ありがとうございました。○ どの学級の先生にも熱意を感じる授業でした。2組のロウカ側の児童4名が静かすぎるのが気になりました。庭側の児童は活発に先生とのうけ答えをしてたので特に気になりました。通級の先生方、熱心にこどもたちの目線で接しているのが印象に残りました。特別支援学級というと知能が低いと考えがちですが、そうではなく、その子のペース（情緒面）で、最終的に同じにしていくという指導を、体をつかってやっている先生を見て、すばらしいと思いました。○ 普通学級、特別支援、通級、それぞれの学級の授業を参観させて頂きました。普通学級に入った時に隣のクラスの声が聞こえてきましたが児童たちは集中して授業を受けていました。特別支援学級では3人の児童を先生と補助の先生が見ていて先生が子供たちの集中を切らさないように一生懸命。間違った答えにも否定せず正しい答えに導くようにしていました。通級ではひとりの児童に体を使い教えていました。3つの学級が同じ国語の授業をしていたのには驚きましたが、それぞれの学級にあわせた教え方でとても良かったと思います。

まとめ

- ・「感想シート」のまとめを小学校に共有した結果、教職員の自信や励みにつながった。
- ・保幼小連携・接続について、地域の声が小学校教職員に届いた貴重な機会となった。
- ・2月にこども園参観（相互参観）を実施予定。小中学校教職員、こども園職員が参加。
- 今年度は、家庭教育支援員も参加し、家庭教育支援と保幼小連携・接続の一体的推進に向けて、架け橋期における理解と支援をより一層高めていきたい。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

架け橋カリキュラムの【共通の視点】 「育てたい子どもの姿」について語り合う



幼児教育施設、小・義務教育学校の管理職研修での「架け橋カリキュラム」の意義、必要性等の理解からスタートし、年4回の担当者部会を開催した。管理職の先生方が、県幼児教育アドバイザー神永直美先生の講話を聞き、「育てたい子どもの姿」を話合いながら、6つの中学校区ごとにキャッチフレーズを考えた。それを受け、保幼小の担当者で作成を進めてきた。

参加者（保幼小コーディネーター35名、管理職18名）

準備物（ワークシート、作成ガイドブック、付箋）

■協議「育てたい子どもの姿」における主な意見

6つの中学校区ごとに本市の教育目標、園、学校の教育目標等を踏まえながら考えていった。

小学校からは、自分も友達も大切、自己肯定感や人とのつながりを大事にしたい。最後まであきらめずに頑張る子ども、気力のある子どもを育てたい。幼児教育施設では、子どもの「やってみたい」という興味・関心から活動が広がるような環境を通して保育をしている。グループそれぞれの付箋から「育てたい子どもの姿」は保幼小間で大きな違いがないことを共有した。

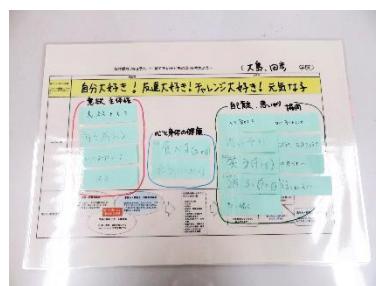
○育んでいきたい子どもの姿

【学区ごとのキャッチフレーズ】

- ・助け合いながら自立していく子、想像し意欲をもって試す・工夫、表現する子
- ・自分でやってみたい♡思いやり・意欲・しなやかな心♡一緒にやってみよう
- ・いろいろどり、豊かな心
- ・自分大好き！友達大好き！チャレンジ大好き！元気な子
- ・やさしさとたくましさ、そしてちょっとの想像力
- ・自分の思いや願いを実現できる子

【振り返りアンケート（管理職研修）より】

今回「育てたい子どもの姿」を学区で協議できたことは大きな一歩だ。子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を保幼小で再確認できた。「何をつなぐのか」をともに考えながら実践していくことを期待する。



○「先生の関わり」や「環境の構成」の協議の中で

管理職研修で考えた「育てたい子どもの姿」を受けて、2回目以降は保幼小のコーディネーターが集まり、情報交換や保育、授業のエピソードを話しながら協議した。

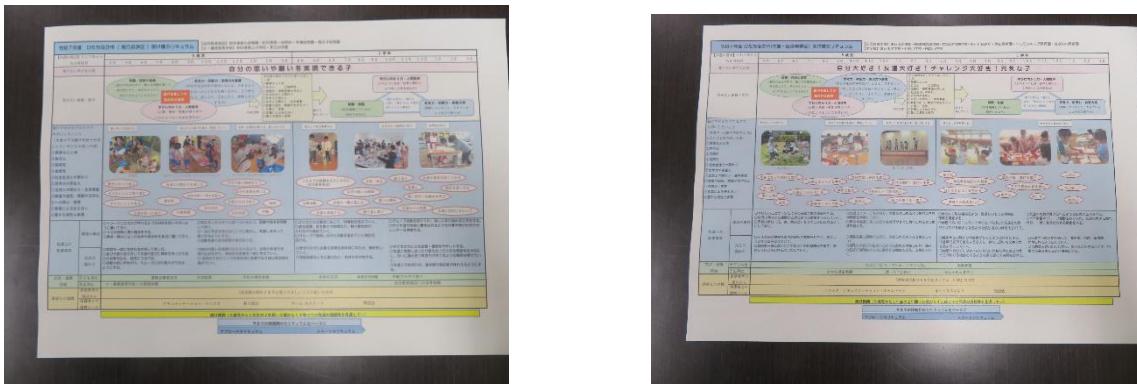
【振り返りアンケート（小学校コーディネーター）より】

小学校職員は幼児教育施設で子どもたちがどのような経験をして学んできたのかが分かり、また、それが小学校の教育にどのようにつながっていくのかを知ることができた。



行政が定期的に進めてきた会議であったが、互いの教育を理解しようと意欲的に参加する姿が見られた。今後、更に連携体制を充実させ、このカリキュラムを実践して見直し、改善していくためにも、視点をもった相互参観等を引き続き行い、継続的に情報を共有する機会をもつことが必要である。

【ひたちなか市 参考資料】



紙面はほぼ完成



作成中の様子

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

村全体でのスタートカリキュラム公開研修 ～安心できる環境を考える～

東海村

毎年4月中旬に村内小学校でスタートカリキュラム公開研修を行っている。対象は村の私立を含めた幼稚教育施設・小中学校である。環境を整えることや教師のかかわりなどを小学校・幼稚教育施設・教育委員会で検討したり、共通のシートを活用して幼児期での遊びや姿を引き継いだりして、小学校で安心して過ごせるよう取り組んでいる。教育委員会としての準備は、実施小学校と共に活動案・授業の流れ・環境の検討、助言や実際に授業見学をして一緒に振り返りなど、基本的には共に考えることを重点に準備した。

■「保育参観　～安心感・自己決定・シームレス～」

幼稚教育施設からの情報や引継ぎを活用し、安心して過ごせるような場作り、自分で決めて遊びだせる環境を意識して、小学校と教育委員会とで協議を行う。また、物的環境だけでなく人的環境についても考え、授業の導入から子どもたちの興味関心がもてるような工夫を意識した。小さな工夫で授業内容に繋げる姿が印象的であった。



【幼児期に遊んだことのある遊びを設定】



【コックさんの帽子をかぶって導入】 【自分で行きたい場所を選べる】

「安心感につながる関わり方や援助」について

- ねんこり「むじせりにい」というものを持ち寄る時に面倒を見られた。
△同じもの(手芸)に気付けて手作りかい、次の手芸につながっている
- △おもちゃ等への手作りがおもてや見られて(小道具など、コックさんらしい、キレイの事)
△おもちゃ等が工夫されている。
- △おもちゃ企画をぜひ見てみたい。どこで『育む』と言われているか。
- △おもちゃの下ばかりでも丁寧でいい。よくあくびーんな感じに笑顔でいる人がいる。
△おもちゃやおもちゃないものにしておもつらの興味を引きいて見ていいく。
- △おもちゃ一方的にあげてではなく、おもちゃはおもてやわたり大切にされていて、
△おもとの安心感につながっている。
- △おもちゃの中で、いろいろな動きや音楽が多めでいい。うるさいから静かな遊び場にこだわる
△おもちゃでいい。
- △荷物の入出室日曜日の日に荷物を机内に置かれており、荷物をどう運んでくれたかしていったのが、入出室のときに車両のストップとかわかりにくくていい。
△荷物が届かない。子どもたちの安心感につながるところを聞いていた。

■「グループ協議　～安心感につながる関わりや援助～」

5人グループに分かれ、「安心感につながる関わりや援助」をテーマに協議を行った。幼・小・中それぞれの施設を混ぜて協議することで、子どもの姿の捉え方が違い、お互いの考え方や思いを知ることができた。こういった対話の場があることで、お互いを知り、それぞれで大切なことが共通理解されていくと感じた。

△実際の協議した内容の一部

■「教育委員会からの指導・助言　～当日の様子の振り返り及び安心感につながる関わり・援助・環境～」

朝の活動から1時間目を参観し、当日の教師の関わりや環境について振り返り、キーワードの「安心感・自己決定・シームレス」がどの姿に表れているかを共通理解した。また、標記の題で助言を行い、「安心感のためにはまず信頼関係が大切」であること、その「信頼関係を築くためにどうするか」、大きな改善でなく「小さな工夫を継続」など、共通理解したいことを整理できるようにした。



取り組みの成果としては、幼・小・中、様々な施設の先生が一同に集まり、同じテーマで参観・協議することで、お互いを知るきっかけになった。子どもの姿を多角的に捉え、考えを共有することで新たな発見につながった。現在、7年目となったスタートカリキュラム公開研修であるが、教師の負担や組織的な理解についてはまだ課題が残る為、継続する中で負担軽減しながらも接続の質をあげられるよう検討、実践していきたい。

フェーズ1

基盤作り

フェーズ2

検討・開発

フェーズ3

実施・検証

フェーズ4

改善・発展サイクルの定着

かけ橋カリキュラムの【共通の視点】を実践に生かし、 その後の育ちと小学校とのつながりを考える

神栖市



「神栖市かけ橋カリキュラム」を基に小学校区で作成したかけ橋カリキュラムの活用の充実を目的として、幼児が夢中になって遊び込んでいる写真を見ながら、共通の視点を生かして、環境の構成、先生方の関わり、小学校とのつながり等を協議していった。

取組に向けて工夫した点 協議前に神栖市幼児教育アドバイザーによる講話を実施

参加者 保育者、小学校教員

準備物 神栖市かけ橋カリキュラム、小学校区で作成したかけ橋カリキュラム、ワークシート

■ 「共通の視点を生かし、その後の育ちと小学校とのつながりを考える」

参加者を小学校区の8グループに分け、幼児が夢中になって遊び込んでいる写真を見ながら協議し、かけ橋カリキュラムの実践について確認した。

○環境の構成の工夫

- いろいろな素材でもすぐに試すことができるよう、子どもが使いたいと思う様々な材料を目付くところに用意する。
- 散歩した中で拾ったものを材料として使えるようにする。
- 教室に図鑑を置いて、好奇心を高められるようにする。



○先生方の関わり方

- 子どものつぶやきを拾い、今までの体験や経験を生かして遊び込めるようにする。
- 子どもの気持ちに共感し、一緒に考える場をもつなど、子どもたちにどうすれば良いかを聞き、話合いから活動の流れを決めていく。
- 活動において、予想する時間を設けることで子どもたちの発想などを引き出していく。
- できあがった物を最終的にどうするのか、どんな遊びに発展させていくのかを考える。
- 前向きな言葉掛けをして、次回の活動へ期待をもたせる。

○小学校との学びのつながり

- 活動の中で予想したり、工夫したりして自分たちで考えて取り組んでいく。



幼児の活動している写真を見ながら、小学校区で協議していくことで、小学校教員は幼児教育施設での環境の構成という視点での気付きが多く感じられた。また、保育者にとっては小学校との学びのつながりを意識することができた。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

結城市保幼小接続担当者研修会 ～特別支援教育の視点から見る保幼小連携のあり方～

結城市

結城市には、17の幼児教育施設（企業主導型保育園を含）と9の小学校があり、切れ目のない連続性のある一貫した保育・教育を目指している。近年、様々な教育的ニーズへのきめ細やかな指導・支援が求められている現状を踏まえ、本市の研修会では、茨城県幼児教育アドバイザー派遣事業を活用し、特別な配慮を必要とする子どもへの支援に関する研修会を実施した。

【参加者】小学校9 私立保8 公立保3 私立幼1 指導主事1

■講話 「特別支援教育の視点から見る保幼小連携のあり方」

講師：茨城県幼児教育アドバイザー

共栄大学教育学部教育学科 梶井 正紀 先生

○特別な配慮を必要とする子どもに関する情報の引継ぎについて

- ・情報の確実な引継ぎを行うために用いる連携ツールの必要性
(就学支援シート・サポートシートなど)
- ・保護者との連携、情報共有のあり方
- ・保健福祉部局との連携及び教育支援センター等も含めた支援体制の構築

■グループ協議 「特別な支援を必要とする子どもの教育・保育について」

○ 現在取り組んでいることの紹介

- ・子どものニーズに応じた自立活動
- ・生活面での自立を目指した支援について
- ・児童の実態に応じた学習内容の検討
- ・ICT機器の効果的な活用(デジタル教科書等)

○ どのような保幼小の連携ができるか、または必要か

- ・特別な支援を要する子どもの情報交換
- ・相互授業参観や交流活動
- ・園児や児童の様子を観察するだけでなく、保育士や教諭の働きかけを学ぶ機会を設定する

○ 難しいと感じていること

- ・交流時期の設定をもっと早める
- ・保護者がもつ不安感の解消
- ・保護者との情報共有のもち方
- ・環境(教室・指導者)の変化によって不安定になる子どもへの対応

今後、以下の点について関係課との連携を深め、保幼小接続について協議し進めていく必要性を感じている。

- ・保幼小連携・接続のための体制づくりの強化
- ・架け橋カリキュラム作成に向けたプロジェクトの推進

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

架け橋カリキュラムにアイデアを加え、内容を深化させる ～町保幼小接続研修会での実践～



茨城町では園内リーダーと保幼小接続コーディネーターの研修会を年2回実施している。今年度は、令和7年7月25日（金）に第1回目の研修会を実施した。具体的には、保幼小の先生が昨年度に作成した架け橋カリキュラムを見直し、内容を追記してさらに充実させるためのグループワークを行った。

参加者 公立幼稚園8名、私立幼児教育施設4名、小学校4名、教育委員会3名
参加者は子どもたちの遊びや学びの写真を持参

■グループワーク（小学校区ごと）の流れ

- ① 小学校区ごとの「育てたい子どもの姿」を確認する。
 - ・昨年度参加した先生から、どのような願いでキヤッチフレーズにまとめたのかを話してもらう。
- ② 架け橋カリキュラムを意識した子どもの姿について語り合う。
 - ・持ち寄った写真を見せ合い、子どもの姿や育まれている力について、育てたい子どもの姿と関連付けながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」をもとに語り合う。
- ③ 架け橋カリキュラムの内容を充実させる。
 - ・共通するところに写真を置いたり、「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」にキーワードを書き足したりする。
 - ・話し合いを通して、環境の構成や先生の関わりについての新たな発見をカリキュラムに追記する。

子どもたちが「思考を働かせる」ことを大切にしたいですね。キーワードに加えましょう。

小学校でも子どもの「やってみたい」気持ちを大切にするために、柔軟に合科的な授業を取り入れられるよう、校内でも話し合ってみます。



■参加者の感想

- ・写真があったので、普段の保育について具体的に気軽に話合いができるよかったです。また、小学校の様子も分かり、学びのつながりを感じた。小学校へのスムーズな繋げ方について様々な意見が出て、園での取組を見直すよい機会になった。（幼児教育施設）
- ・カリキュラム作成を通して、幼児教育施設の先生方がどのような願いや思いをもって保育にあたっているのかを知ることができました。また、幼児教育施設で子どもたちがたくさんの経験を積んでいることが分かり、驚いた。（小学校）

【成果】昨年度参加した先生を中心に、子どもたちの写真をもとに小学校区ごとの活発な話し合いが展開された。小学校の先生が校務用タブレットを持参して話し合いながら架け橋カリキュラムに追記したので、研修会後すぐに更新したデータを各校（園）に共有できた。

【課題】研修会に参加していない先生方にも取組を広げて、カリキュラムを日常的に活用できるものにしていく必要がある。

【今後の予定】追記した令和7年度版の架け橋カリキュラムを、小学校ごとに実施している保幼小連絡協議会や授業参観（保育参観）の資料にも加え、協議の際に活用する。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

鹿嶋市架け橋カリキュラムのさらなる充実 ～各中学校区架け橋カリキュラム作成～



鹿嶋市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることを目的に、幼児教育施設および小学校の職員を対象とした「架け橋カリキュラム」の見直しに関する研修会を開催した。研修では、中学校区ごとに共通の視点をもって協議を行い、連携の在り方やカリキュラムの工夫について意見を共有した。

参加者 公立幼：5名、公立認こ：1名、私立認こ：6名、公立保：3名、私立保：6名、
小学校：13名、幼児教育コーディネーター：3名

準備 参考資料「園・小学校の実践事例」「鹿嶋市架け橋カリキュラム」

■グループ協議①「実践事例を通して育てたい子どもの姿を考える」

各園および小学校が実践事例を発表し、それぞれの取り組みについて情報共有を行った。その後、発表された実践が各中学校区の架け橋カリキュラムにおける「育てたい子どもの姿」、「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」、「環境の構成」とどのように関連しているかを視点に協議を行い、実践とカリキュラムとの結び付きについて理解を深めた。

【協議内容】

- ・幼児施設での遊びが小学校の学びにつながる具体的な場面が多く見られた。
- ・幼児施設の環境構成を小学校でも活用することで、円滑な接続につながる。



■グループ協議②「交流・連携計画と家庭との連携について」

各園・小学校の実践事例集

各グループでは、架け橋カリキュラムにおける「交流・連携計画」と「家庭との連携」の視点から、現在の取組の共有や課題の整理を行い、今後の連携の在り方について協議を深めた。また、今後実施可能な具体的な「交流および連携」や「家庭との連携」の取組についても意見を出し合い、実践に向けた検討を行った。



■助言・指導「架け橋カリキュラムのさらなる充実について」

講師「常磐短期大学 幼児教育保育学科 助教 宗次 直巳 先生」

研究協議を参観いただき、「小学校は児童の様子を見取り、伸びた点や伸ばしたい点を考慮して指導すること、幼児教育施設は小学校生活を見据えて計画を立てることが求められる。カリキュラム作成を通じて両者が互いを理解し、その理解を指導に生かすことが重要である」という助言・指導をいただいた。さらに、教育と保育の違いについて資料を用いて解説があり、「保育と教育の質の向上」について考える貴重な機会となつた。

本研修を通して、各中学校区における架け橋カリキュラムの実践状況や課題を共有し、今後の方向性について確認することができた。今後も、各学区ごとに架け橋カリキュラムの見直しを継続的に行い、より効果的な支援につなげていく。また、スタートカリキュラムやアップロードカリキュラムについても、各地域の実情に応じた改善を重ねていく予定である。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

筑西市架け橋カリキュラム

～幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」を意識したカリキュラムデザイン～

筑西市



筑西市保幼小連絡協議会概要

役員 幼児教育施設役員 5名（私立・公立含） 小学校 校長 1名
会員 筑西市内幼児教育施設 26園全職員 筑西市内小学校・義務教育学校 16校全職員
事務局 筑西市教育委員会 指導課

■年2回の役員会開催 「年間を通じた活動の見通しと改善点等の確認」

○小中連携における取組の確認

- 各施設での架け橋カリキュラムの実践の推進
- 次年度小学校への就学を見据えた連携体制の確認

幼児教育から小学校教育へ

筑西市
架け橋カリキュラム

■年3回の研修会実施 「保幼小接続に関する取組の充実に向けた研修会」

○ 第1回研修会

- 期間 令和7年5月から7月までに各小学校で開催
- 研修内容 筑西市内全小学校が「筑西市接続カリキュラム」の「接続期(小学校入学期～1学期の終わり)に育てたい3つの力」に示した「具体的な子どもの姿」との関連を明確にしたうえで、
小学校1年生の授業を公開し、筑西市内全幼児教育施設職員
が参観した。



筑西市教育委員会
筑西市保幼小連絡協議

- 協議・情報交換会 接続の在り方の改善点について、幼児教育施設職員、小学校管理職、1年生担任が話し合った。

10の姿



○ 第2回研修会

- 日時 令和7年7月25日(金)
- 研修内容 全幼児教育施設の園内リーダーと全小学校の保幼小コーディネーターが参集し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して、カリキュラムを再デザインした。



○ 第3回研修会

- 期間 令和8年1月から2月上旬までに各幼児教育施設で開催予定
- 研修内容 筑西市内全幼児教育施設が「筑西市架け橋カリキュラム」との関連を柱に、年長児の保育を公開し、筑西市内全小学校職員が参観する予定である。
- 協議・情報交換会 特に「架け橋期」を意識した情報交換会とする。

「小学校の学びは0からのスタートではない」ことを協議会で再確認し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭におき、それに至る幼児教育施設のカリキュラムやそれを基礎とした小学校のカリキュラムづくりを意識した。

まとめ

今後は、中学校区ごとに架け橋カリキュラムを再分化し、より地域の特色や願いに合わせたカリキュラムの検討・改善に取り組む。

フェーズ1
基盤作り

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

「かけ橋期のカリキュラム」の編成・実施 ～かけ橋期のカリキュラムフェーズ4の充実と 園児・児童の交流に向けて～

境町

幼児期から児童期にかけては、学びの基礎力を培う大切な時期であり、互いの教育を見直し、連続性・一貫性のある教育を行う必要がある。かけ橋（接続）カリキュラムによる幼保小連携・接続を行うために本委員会を開催し、幼児教育施設と小学校教育のさらなる接続連携を図っていく。

■本年度の事業計画

- 令和7年度境町幼児教育と小学校教育の接続委員会
- ①かけ橋期のフェーズ4及び積極的な交流に向けての協議
 - (1) 日常活動やカリキュラム上での課題について
 - (2) 園児と児童の相互交流の実施について
- ②授業と保育の相互参観及び協議の実施
- ③保幼小接続のための研修会の実施
- ④実践報告書の作成



■保幼小接続事業・授業と保育の相互参観の実施

7月2日（水） 境町立森戸小学校で実施（町計画訪問と兼ねる）

10月21日（火）キリスト愛児園で実施

«参観者の感想より»

- ・ただ与えられた課題ではなく、意欲をもって自ら調べる、収集することはより深い学びに繋がるきっかけになるので、意欲を引き出せるような声掛けや流れ、経験との関連を意識し、子どもが遊び（=学び）こむことを自然と楽しめる環境づくりをしていきたい。
- ・記憶だけではあいまいなことも、現代のよさであるタブレットをうまく利用できて学びやすいと思いました。
- ・子どもたちが就学前に積み重ねてきた「やってみたい」を十二分に引継ぎ、生かしていると思います。
- ・ひとりの子の発言からみんなで電車の路線を作ったり、実際の電車を見て乗って、公共について学ぶことに繋がっていることがすごいです。
- ・子どもたちがやりたいと思ったことに、とことん手助けしているこのような支援ができていることに感銘を受けました。



■保幼小接続のための合同研修会の実施

12月2日（火）：境町幼児教育と小学校教育の接続推進事業研修会

○境町教育支援センターの公認心理師の先生から助言をいただく予定。

昨年度、境町のかけ橋カリキュラム（アプローチ・スタートカリキュラム）を見直し、今年度はそれを踏まえた実践を各幼児教育施設と小学校で実践していただいた。先生方はそれぞれの園や小学校の特徴を生かし、相互授業参観・保育参観や研究協議を行い、お互いの視点や考えの交流を深めながら、保幼小のさらなる連携を図ることができた。